

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目1 教育内容及び教育の成果等	1-01	ティーチングアシスタント等の充実、大学院分野横断型プログラム(プログラム実施、新プログラム検討)、早期履修制度の導入、法曹コースの開設、アクティブ・ラーニングの推進	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・TA制度について、配置人数の拡大を図るとともに、教員に対するeラーニングやアンケートの実施により、実態把握や効果の検証まで行った。 ・大学院分野横断型プログラムが順調に進捗し、超伝導理工学及び生体理工学の高プログラムから合計13名の修了者を輩出した。 ・経営学研究科及び理学研究科において、早期履修制度を採用し、34名の学部生が大学院科目を早期履修し、33名が都立大大学院に進学した。	2	松山	◎大学院分野横断型プログラムが順調に進捗し、超伝導理工学および生体理工学の高プログラムから合計13名の修了者を輩出した。さらに、都市や情報学をテーマにした新たなプログラムの作成を目指している。 ◎大学院経営学および理学研究科において、早期履修制度を採用し、34名の学部生が大学院科目を早期履修し、33名が都立大大学院に進学した。 ◎社会に対する学生の質保証を促進するため、厳正な成績評価に取り組んでおり、評価基準に基づく評価が定着しつつある。一部科目でルーブリック評価を導入する取組みが開始され、今後、普及・拡大することが期待される。 ◇外国語教育室を設置し、英語教育分科会と協同で外国語科目のカリキュラムの検討を始め、学生の語学レベルに合わせたカリキュラムの問題点が明確になっている。 ◎TOEIC受験率96%を維持することで学生の語学レベルをより正確に把握することができたとしているが、一歩進めて、語学レベルの向上を目指し、目標とするTOEICスコアを定めて、クリアするよう努めていただきたい。
	1-02	外国語教育室の設置、英語による授業科目数増加に向けた取組、英語教育の改善に向けた取組	B	・アクティブ・ラーニングを推進するために、教育改革推進事業(学内提案分)の成果報告会を開催するとともに、学生広報チームが成果報告会の様子を取材し、学生目線による教育改革の取組成果が大学公式ウェブサイトを通じて学内外に発信された。	2	島田	◎1-01「早期履修制度の導入」により、34名の早期履修者のうち33名が都立大大学院へ進学(令和2(2020)年4月)したことは、研究の連続性の観点からも大変有益である。 ◎1-01アクティブ・ラーニングの推進において、学生広報チームが組織されて、学生目線での評価が行われたことは評価できる。 ◎1-03多摩地域の企業等と連携したPBL教育の実施は、都立の大学として重要な社会的役割を果たしている。
	1-03	「現場体験型インターンシップ」の満足度向上へ向けた取組、社会ニーズ・学生ニーズに対応した教育の提供	B	・現場体験型インターンシップについて、履修した学生アンケートの満足度は大変高く、企業等が行う多くの採用活動目的のインターンシップとは異なる特徴を持った充実したプログラムが組まれている。	3	杉谷	◎早期履修制度が導入され、成績優秀者が大学院レベルの科目を進学前に履修することができるようになった。学士課程と大学院の課程の接続が円滑になっているとともに、自大学大学院進学の誘因になると考えられる。他研究科への拡張も検討されてもよいのではないかと期待される。 ◇ルーブリック評価が多様な授業科目で導入・活用され、それらの事例を通じて効果や課題が学内に共有されていることは評価できる。学修成果の測定・評価方法は多様であり、その開発については研究途上な面もある。測定・評価対象に応じた利用や複数の方法の併用も考えられるだろう。科目の内容や履修者の状況等も考慮に入れたうえで、効果のみならず課題の分析等を行うなど更なる発展を期待したい。
	1-04	グローバル・コミュニケーション・プログラムの実施、2大学1高専の連携	B	・ルーブリック評価について、基礎ゼミナールのモデルルーブリックを令和2年度から活用できるように準備するとともに、新たに理学部生命科学科、都市環境学部環境応用化学科、大学教育センターの3部局においてもルーブリック評価を取り入れた。	2	鈴木	◎TA制度について、配置人数の拡大を図るとともに、教員に対するeラーニングやアンケートの実施により、実態把握や効果の検証まで行った点が評価できる。引き続き、アクティブ・ラーニングに資する効果的な取組として、TA制度の充実が期待される。また、教育の充実に加え、新型コロナウイルスの影響を踏まえ、配置人数の拡大は、学生に対する経済的支援の機能としても期待される。 ◎新規に導入された早期履修制度について、対象となった34名中33名が大学院への進学につながっていることが評価できる。進学前から高度な教育を受けた早期履修者の今後の学修・研究活動の発展が期待される。 ◎教育改革推進事業(学内提案分)の成果報告会を学生広報チームが取材し、学生目線による教育改革の取組成果が学内外にWebで発信されており、学生確保に向けた対外的な広報の役割も果たしている。 ◎ルーブリック評価について、基礎ゼミナールのモデルルーブリックを令和2年度から活用できるように準備した点が評価できる。理学部生命科学科、都市環境学部環境応用化学科、大学教育センターの3部局においてもルーブリック評価を取り入れた特色ある取組が行われた。引き続き、取組の成果や課題を学内で共有しつつ、多様な授業科目で推進されることが期待される。 ◇現場体験型インターンシップについて、履修した学生アンケートの満足度は大変高く、企業等が行う多くの採用活動目的のインターンシップとは異なる特徴を持った充実したプログラムが組まれている。一方、履修申請者数は前年度比6割弱に留まっている。学生に対して、キャリア形成を支援するプログラムとしての魅力等、周知を充実していくことが期待される。
	1-05	厳正な成績評価の実施、ルーブリック評価導入に向けた取組	A		2	高橋	◎TAを活用するアクティブ・ラーニングの実践、大学院分野横断プログラムの修了者輩出、大学院科目早期履修制度導入、ベスト・ティーチング・アワード制度の検討、英語教育改善に向けた各種取組(外国語教育室設置、英語による授業科目数増加、等)、卓越大学院プログラム開始、ルーブリック評価制度の拡充等、数々の教育内容の充実に向けた取組が順調に進行している。 ◇中期計画では、英語教育の改善活用のために、1年次の外部英語試験受験率96%以上を目標とし、毎年達成されていることは評価される。さらに、英語学力の平均的底上げを図るには、1年次だけでなく、その後卒業までの、何らかの仕組みや目標を定めてはどうか?
	<主な実績> [1-01] ・TA等を【年間延べ870人】配置した。 ・大学院分野横断プログラムにおいて、初の修了者を13名輩出した。 ・学部生による大学院授業科目の早期履修制度の運用を開始し、2研究科で34名(延べ70科目)の早期履修者を決定した。 ・学長表彰制度(ベスト・ティーチング・アワード)の導入準備を整えた。 [1-02] 1年次の外部英語試験受験率【96%以上(96.9%)】を維持した。 [1-03] 卓越大学院プログラムを開始し、2名のプログラム生を受け入れた。 [1-05] ・成績分布表の組織的な確認が定着した。 ・多様な授業科目におけるルーブリック評価の導入・活用事例の発表を通じて、効果や課題等が共有された。		<参考意見> ・現場体験型インターンシップについて、履修申請者数は前年度比6割弱に留まっている。学生に対して、キャリア形成を支援するプログラムとしての魅力等、周知を充実していくことが期待される。 ・ルーブリック評価が多様な授業科目で導入・活用され、それらの事例を通じて効果や課題が学内に共有されていることは評価できる。学修成果の測定・評価方法は多様であり、その開発については研究途上な面もある。測定・評価対象に応じた利用や複数の方法の併用も考えられるだろう。科目の内容や履修者の状況等も考慮に入れたうえで、効果のみならず課題の分析等を行うなど更なる発展を期待したい。		2+	村瀬	◎自己評価(1-01)はS→Aとなっているが、TAの人数は増えており、加えて学長表彰「ベストティーチングアワード」導入準備、すぐれた教育に取組んだ教員へのインセンティブ付与など学長のイニシアチブの下での優れた取組みと成果は十分に評価できる。また、新たな取組みとして「早期履修制度」導入とその成果についても評価したい。 ◇1年次の外部英語試験受験率を100%をめざして欲しい(入学前の受験も可能とする等、フレキシブルな対応で受験率向上を図って頂きたい)。
					3	最上	◎全学的に教育改革推進事業の着実な実施がなされている。 ◎TAの活用や、eラーニングの実施に際し、アンケート調査を行って、その有効性を検証している。 ◎大学院分野横断型プログラムのパイロットプログラムの実施し、修了者を出している。 ◎インターンシップに対する取組やプログラム全般の見直しを行ったことにより履修生の満足度が向上。 ◎「外国語教育室」を設置し、新英語教育プログラムの開発に取り組んでいる。 ◎全学共通科目以外(理学部生命科学科、都市環境学部環境応用化学科、大学教育センターの3部局)にもルーブリック評価の導入が試みられている。 ◇TAやSTAの配置について数値目標とに隔りがある。 ◇新英語教育プログラムの開発状況が不明。 ◇インターンシップの受け入れ先が増加しているが、履修者が減少している。 ▲4ページの表にあるSAの内容とこの表への掲載理由が不明。 ▲中期計画1-0-4は、4-1-2に代替しているが、都立大学側からの視点での記載が必要なのではないかと。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2)教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目2 教育の実施体制等 【教育改革を推進する取組の強化】	1-06	データ分析に基づく教育改善に向けた取組、博士後期課程の活性化に向けた取組	S	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・教育改革にIRが有効に活用され、様々な学修データを分析すると共に、過去のデータ分析も加えて、全学的な教育改善に向けて取り組んでいる。 ・博士後期課程の活性化に向けて、大学院キャリア科目の開講等、当初予定されていた取組を全て完了しており、定員充足率が1.04に回復している。 <参考意見> ・教学IRのデータが充実し、令和元年度も掲載データ数が205件まで、更に伸びてきたとのことである。世の中でもまだ試行錯誤の段階にあると考えられるこの分野において、専任者を置いて力を入れてきた成果であり、例えば、「特記事項」などで特集して報告する価値があるのではないかと考える。 ・博士研究員制度について人文系では専門研究員(学位未取得)が目立つことについて、学位取得のプロセス自体に改善の余地がないか是非検討して頂きたい。	1	松山	◎教育改革にIRが有効に活用され、様々な学修データを分析すると共に、過去のデータ分析も加えて、全学的な教育改善に向けて取り組んでいる。 ◎大学院博士後期課程の活性化に向けての取組は顕著であり、博士人材の育成の姿勢は明確で評価できる。 ◎博士後期課程学生へ新科目「理工系博士人材のキャリア形成」と「博士人材の研究インターンシップ」を設け、積極的にキャリア形成に向けて取り組んだ。 ◎博士研究員制度を導入し、課程修了後に博士研究員、専門研究員として大学で受入れ、研究活動を支援している。 ◎博士後期課程の定員充足率が問題になる大学が多いが、都立大も過去に未充足率の指摘を受け、改善に取り組んだ結果、本年度充足率は104%にまでなった。
	<主な実績> [1-06] ・各運営委員会や部局等からの分析依頼について、計31件の分析結果の回答を行うとともに、学長、副学長及び部局長等で構成される教学IR委員会において主な分析結果を報告した。 ・博士後期課程の活性化に資する取組のひとつとして、博士研究員制度・専門研究員制度の運用を開始した。		2		島田		
			1		杉谷	◎データ分析に基づく教育改善に向けた取組としては、学内の運営委員会や部局等からの分析依頼も多く、モデル時間割の検討を支援するなどユニークな取組を行っている。分析結果に基づいた教育改善が着実に進展している。	
			1		鈴木	◎データ分析に基づく教育改善に関する取組について、各運営委員会や部局等からの分析依頼に対し、31件の分析結果の回答を行っており、様々な分析依頼が寄せられている点について、学内で教学IRの取組が浸透していると評価できる。分析結果は、教学IR委員会でも報告され、分析結果に基づく教育改善が推進されている。 ◎博士後期課程の活性化に向けて、大学院キャリア科目の開講等、当初予定されていた取組を全て完了しており、定員充足率が1.04に回復している点が評価できる。	
			2		高橋	◎教学IRについて、引続き活用され教育改善に生かされている。	
			2		村瀬	◎従来から継続している教学IR委員会の取組みできめ細かな分析、報告が行われていることを評価する。また、博士課程後期の活性化に向けた施策がすべて実施されたこと、特に「博士研究員制度」導入を評価したい。但し、博士後期課程の定員充足率向上は継続課題。 ◇博士研究員制度について人文系では専門研究員(学位未取得)が目立つことについて、学位取得のプロセス自体に改善の余地がないか是非検討して頂きたい。	
		2	最上	◎教学IRシステムが十分に機能し、その成果が教育改善に反映されている。 ◎博士後期課程の活性化に向けた様々な取組がなされ十分な成果があった。			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目3 教育の実施体制等 【学修支援環境の整備、教育の質の改善】	1-07	キャンパス学修環境の整備・拡充	B	◎評定説明◎ ◎優れた点・特色ある点 ・FD活動について、各部署でのFDセミナーが8回に増加するなどして、セミナーの参加者は昨年度に引き続き300人を超えており、部局でも取組が推進されている。	3	松山	◎FD関連セミナーが拡充され、参加者も増加している。特に、当日参加できなかった教員に動画配信することで多くの参加を得たのは評価できる。 ◎科目ナンバリングが進み、学生が履修計画を立てる上で役立っており、更に加速されることを期待する。 ▲産技大では、かなり以前から動画配信によるFDフォーラムを実施し、高い出席率を誇っている。参考にされたら如何だろうか？	
	1-08	FD 関連セミナーの拡充	A		2	島田		
	1-09	四半期授業の環境整備・試行状況、科目ナンバリングの公開・活用方法の周知	B		3	杉谷	◎前年に続き、FD関連のセミナーの開催数と参加者数が増加している。	
	<主な実績> [1-08] ・FD関連のセミナーの合計開催数は過去5年間の平均7回の約2.8倍となる20回、セミナー参加教員数は過去5年間の平均170名の約1.8倍となる308名となった。 ・アクティブ・ラーニングセミナーやTAの効果的な活用方法等の講義について、eラーニングシステムkibacoiによる動画配信を開始した。				3	鈴木	◎FD活動について、各部署でのFDセミナーが8回に増加するなどして、セミナーの参加者は昨年度に引き続き300人を超えており、部局でも取組が推進されている点が評価できる。アクティブラーニングセミナーやTAの効果的な活用方法等の講義について、eラーニングシステムkibacoiによる動画配信も開始されており、今後、集合研修等の形式をとることが難しいことも予想されることから、eラーニングシステムの更なる活用と受講者・参加者の拡大が期待される。	
	[1-09] ・新たに4つの学部において四半期授業を試行した。 ・履修の手引、シラバス及び事務情報システムで科目ナンバリングを活用できる環境を整えた。				3	高橋	◇学生の学習の促進のために、各種ラーニングコモンスの充実、利便性の向上は重要である。例えば、図書館の利用、活用方法などは、1年次にガイダンスなどが行われているであろうが、学年が進行した際にも、学生に刺激を与えて導くような取組み、工夫が行われていれば素晴らしいと考える。	
					2	村瀬	◎FDの実施回数、参加人数の増加を評価したい。	
			2	最上	◎利用者アンケート等を元に、ラーニング・コモンスの利便性の向上がなされた。 ◎FD 関連のセミナー等の充実に取り組んだ。			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価			
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目4 学生への支援	1-10	ボランティアプログラムの拡充、ボランティア活動への支援	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・継続したボランティアプログラムの実施によって、参加する学生の層が厚くなるとともに、専門職員や教員のサポート体制も充実させることで、魅力的なプログラムへと発展している。 ・遠隔操作によるパソコンノートテイク及び支援を受けている学生に対するアンケートを初めて実施する等、障がいのある学生等への支援を充実させている。 ◇更なる充実が期待される点 ・OBOGネットワークの登録者数は増加しつつあるが、まだまだ少ない。広報活動を通して母校との繋がりを強め、学生を支援する体制作りを期待する。 ▲改善すべき点 ・学生定期健康診断の受診率は87.9%まで向上したが、目標の90%までは、なかなか届かない。学生に健康診断の意義を十分に理解してもらう活動をお願いしたい。	2	松山	◎東京2020大会を控え、学生が積極的にボランティア活動を進めている。大学は様々な情報を提供して学生を支援している。また、学生が活動するための組織作りなどを専門職員や教員がサポートしている。 ◎障害のある学生にアンケートを実施し、ニーズや対応方法が明確になり、今後の対応がスムーズに行なわれると期待できる。 ◎多様な構成員がいることを前提に様々な取組を行なっているが、その内容を更に深化させていきたい。 ◇OBOGのネットワーク構築に向けて取り組み、登録者数は増加しつつあるが、まだまだ低い。広報活動を通して母校との繋がりを強め、学生を支援する体制作りが求められる。 ▲学生定期健康診断の受診率は87.9%まで向上したが、目標の90%までは、なかなか届かない。学生に健康診断の意義を十分に理解してもらう活動をお願いしたい。	
	1-11	課外活動への支援、顧問の制度化へ向けた取組	B		3	島田	◇健診受診率が目標の90%に到達していないが、個人での受診も健康支援センターが把握して、受診者として含んだ数値とすべきではないか。	
	1-12	学生への総合的な健康支援	B		3	杉谷		
	1-13	学生への経済支援	B		2	鈴木	◎継続したボランティアプログラムの実施によって、参加する学生の層が厚くなるとともに、専門職員や教員のサポート体制も充実させることで、魅力的なプログラムへと発展している点が評価できる。東京2020大会は延期となったが、感染拡大防止への十分な配慮のもと、新型コロナウイルス禍におけるボランティア活動のあり方等の検討が進み、引き続き活動の充実へつながることが期待される。 ◎教職員に対し、学生対応研修を行うことで、メンタルヘルスや発達障がい等について対応に悩む教職員への支援の充実が図られている点が評価できる。 ◎障がいを持つ学生への支援について、遠隔操作によるパソコンノートテイク支援スタッフの移動の負担軽減に加え、新型コロナウイルス感染拡大防止が求められる中、支援の継続性が担保される面でも評価できる。 ◎OBOGネットワーク、OBOG参加行事とも、個別の働きかけやニーズ分析に基づく改善などにより、確実に登録者数や参加者数を増やすことができている。 ◇学生のメンタルヘルス面の支援について、学生相談室を開放して、学生同士が気軽に交流しながら支援を行う方法を工夫しており、利用者数も拡大している点が評価できる。新型コロナウイルス禍で、潜在的に支援が必要な学生が増えることが予想され、引き続き、相談支援の工夫や充実が期待される。	
	1-14	支援を要する学生に対する支援、多様性を踏まえた構成員に対する支援、多様性を踏まえた構成員に対する支援	A		3	高橋	▲本学は、ボランティアセンターを中心として、ボランティア活動が盛んな大学であると認識している。しかし、一部の熱心な学生が中心で、多くの学生は無関心ということであるとするとやや寂しい結果と言わざるを得ない。薄く広くという発想も大切にして、例えば、学生のボランティア経験割合を高めて卒業することをKPIにして目標とすることも良いのではないかと考える。	
	1-15	OBOG ネットワーク拡大及びOBOG 参加行事の改善、既存のキャリア支援事業の拡充によるキャリア形成支援の強化、大学院生や外国人留学生へのキャリア支援強化	B		3	村瀬	◇健康診断受診率は是非100%化していただきたい(保護者や家族へ受診の重要性を伝えるメールや手紙を学長名で送ってどうか)、また、メンタルストレスチェックが診断項目に入っていない場合は非追加していただきたい(リスクの早期発見につながる)。	
	<主な実績> [1-10] ・外国人おもてなし語学ボランティア講座(東京都共催)を実施した。 ・荒川キャンパスにボランティアセンターを開設した。 [1-12] 健康診断の受診率は【87.9%】まで向上した(平成30(2018)年度比0.7ポイント増加)。 [1-14] 支援を受けている学生に対し、支援に対する意見・要望等についてアンケートを実施した。 [1-15] 日野キャンパスで新たに講座を開催し、支援行事を拡充した。				<参考意見> ・都立大は、ボランティアセンターを中心として、ボランティア活動が盛んな大学であると認識している。しかし、一部の熱心な学生が中心で、多くの学生は無関心ということであるとするとやや寂しい結果と言わざるを得ない。薄く広くという発想も大切にして、例えば、学生のボランティア経験割合を高めて卒業することをKPIにして目標とすることも良いのではないかと考える。			
					3 最上			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4)入学者選抜に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目5 入学者選抜	1-16	大学入学者選抜改革への対応及び質の高い学生の安定的確保、インターネット出願の実施と見直し	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・志の高い学生を確保するため、全募集人員の30%を多様な選抜方法により確保することを計画し、令和3年度入学試験から実施する準備が整った。 ・近年における大学説明会への来場者の増加は顕著なものであり、令和元年度は前年度よりも約3000名も増加している。こうした状況において、日時や会場の調整によってキャパシティーオーバーに適宜対応しながら、入試制度の情報提供が広く行われている。	3	松山	◎志の高い学生を確保するため、全募集人員の30%を多様な選抜方法により確保することを計画し、令和3年度入学試験から実施する準備が整った。 ◎大学説明会への参加者が、前年度に比べて3000人増加したが、特にトラブルもなく対応できた。 ◎令和2年度入学試験一般選抜の志願倍率は例年並を維持し、大学名称の変更による影響は見られなかった。	
	1-17	大学入学者選抜改革等に対応した大学説明会の実施、志願者獲得のための情報提供	A		2	島田		
	1-18	高大連携事業の推進	A		2	杉谷	◎近年における大学説明会への来場者の増加は顕著なものであり、令和元年度は前年度よりも約3000名も増加している。こうした状況において、日時や会場の調整によってキャパシティーオーバーに適宜対応しながら、入試制度の情報提供が広く行われている。また、東京都教育委員会や都立高校等との連携が強化され、高校生への知的探求心を育む取組が進んでいる。	
	<主な実績> [1-16] 令和3(2021)年度入試以降に実施予定の多様な選抜について、全募集人員の30%を確保するとともに、選抜要項・募集要項の記載内容及び実施スケジュール・実施方法等の検討・調整を進めた。 [1-17] 南大沢キャンパスでの大学説明会について、年々増加する来場者によるキャパシティーオーバーへの対策として、広報方針、開催日程、会場の割当及び各企画の実施時間等の検討・調整を行った。 [1-18] 桜修館中等教育学校、東京都教育委員会及び東京都教育庁の依頼事業や共催事業を実施した。				2	鈴木	◎大学説明会の参加者数について、来場者増加によるキャパシティーオーバーへの対応により、前年と比較して3,000人増と大きく拡大した点が評価できる。一般選抜入試の志願者数の減少については、新型コロナウイルスの感染拡大の影響がうかがえる。新型コロナウイルスの影響が長引くことが予想されることから、志願者確保に向けて、減少した要因分析や取組の工夫が期待される。	
				<参考意見> ・一般選抜入試の志願者数の減少については、志願者確保に向けて、減少した要因分析や取組の工夫が期待される。 ・キャパシティーオーバーが懸念されるほど盛況な大学説明会の状況を踏まえ、志願者の更なる増加を期待したい。ウェブ形式での説明会も検討してはどうか。	3	高橋		
					3	村瀬	◎キャパシティーオーバーが懸念されるほど盛況な説明会の状況を踏まえ、志願者の更なる増加を期待したい。WEB形式での説明会も検討してはどうか？	
					3	最上	◎年々増加する参加者に対応しつつ、大学説明会を実施した。 ◎令和3(2021)年度以降に実施予定の入試において、全募集人員の30%を多様な選抜とすることを決定し、選抜要項・募集要項の記載内容及び実施スケジュール・実施方法等の検討・調整を進めた。 ▲都立高校生の入学を促進する多様な選抜の検討結果が示されていない。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	1 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目6 研究水準及び研究の成果等	1-19	高いレベルにある基礎研究力の維持・強化に向けた取組、学術情報基盤及び研究基盤の整備・充実	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・本年度の被引用度トップ10%論文の割合は過去5ヶ年平均では11.9%であり、高水準であった。 ・国際共著論文の割合は44.7%で、第三期中期計画における目標<33%以上>を大きく上回っている。 ・EurekaAlert!!への英文投稿や、オープンユニバーシティ、高校生向け講座開設への取組みなど研究成果等の多様な発信に取り組んでいる。 ▲改善すべき点 ・研究センターの外部資金獲得額が、昨年度から大きく減少し、中期計画の目標として掲げた金額からも大きく下回っている。原因の検証を十分に行うとともに、改善に向けた更なる取組を望む。 <参考意見> ・単年度評価としてはTOP10%論文や国際共著論文比率など数値的には下がったものがあることを謙虚に受止め、改善に努めていただくことを期待する。当該数値のけん引役に偏りがなければいいても是非検証して頂きたい。	2	松山	◎本年度の被引用度トップ10%論文の割合は前年度に比べて低下したが、過去5ヶ年の平均では11.9%で、中期計画の<10%以上>を超えている。質の高い論文が創出されていると評価する。また、国際共著論文は44.7%で、中期計画の<33%以上>を遙かに超え、国際共同研究が際立っている。 ◎研究センターの外部資金獲得額は中期計画で目標として掲げた金額を上回っている。 ◎国内外への研究活動の効果的な広報として、英文プレスリリースEurekaAlert!!で12編の研究を紹介した。
	1-20	大都市課題解決に資する分野横断的・学際的な大型プロジェクトの発展に向けた取組	B		3	島田	
	1-21	研究センターに対する積極的な支援による外部資金獲得、研究センターの質の向上に向けた取組	B		3	杉谷	◎国際共著論文の割合は44.7%と、前年に引き続き、33%をかなり上回っている。
	1-22	国内外への効果的な研究広報活動の推進、オープンユニバーシティ講座における学術研究成果の発信、高校生向け講座の開設に向けた検討	B		3	鈴木	◎オープンユニバーシティ講座において、研究センターを紹介するシリーズを設けることで、高度な研究活動に都民が触れる機会を提供している点が評価できる。高校生の受講者増も、高校生に対して都立大の魅力を伝える機会が拡大になっている。社会貢献型の講座について、今後、新型コロナウイルスの影響により、様々な社会課題が出てくると予想されることから、引き続き、社会テーマに即した講座の充実が期待される。 ◎高校生向けの講座開設について、受講者の満足度の高い取り組みが実施できたことも評価できる。比較的少人数の講座であることから、受講者とのやり取りの中で、高校生の進路選択の支援ニーズを把握する場としての活用も期待できる。
	<主な実績> [1-19] ・トップ10%論文の割合は【7.0%】であったが、過去5ヶ年平均は11.9%と過去より良い数値となった。 ・国際共著論文の割合は【44.7%】となり、33%以上を維持した。 [1-21] ・研究センターの外部資金獲得額を、平成26(2014)～28(2016)年度の平均獲得額比で【124%】にした。 ・研究センターの設置数が【15拠点】、リサーチコアの設置数が2拠点となった。				2	高橋	◎研究力の維持・強化に向けた各種取組みにより、トップ10論文割合、国際共著論文割合が高水準に維持されている。
			3	村瀬	◎EurekaAlert!!への英文投稿や、オープンユニバーシティ、高校生向け講座開設への取組みなど研究成果等の多様な発信に努力している点を評価したい。 ◇単年度評価としてはTOP10%論文や国際共著論文比率など数値的には下がったものがあることを謙虚に受止め、改善に努めていただくことを期待する。当該数値のけん引役に偏りがなければいいても是非検証して頂きたい。		
			3	最上	◎戦略的研究プロジェクトを有効に使い、高いレベルにある基礎研究力の維持がなされている。		

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	1 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置 (2) 研究実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価				
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)		
大項目7 研究実施体制等	1-23	総合研究推進機構における組織的かつ戦略的な研究支援事業の実施	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・科学研究費補助金の新規採択率の向上に向けて、組織的に申請書類の作成支援等を行ったことにより、採択率は、昨年度の27.6%から34.1%へと大幅に向上している。 ・全学の女性教員比率は中期計画の<20%>を上回る20.6%に達している。 ◇更なる充実が期待される点 ・国際的研究拠点の形成を目指す研究センターは多様な研究者が研究に取り組める組織として、中期計画期間で外国人研究者の比率を30%とする計画を掲げている。平成30年度は14.3%だったが、令和元年度は19.2%と上昇しているが、更なる努力を期待する。	2	松山	◎科学研究費補助金の新規採択率(挑戦的研究種目を除く)30%達成に向けて取り組んだ結果、前年度の27.6%から本年度は34.1%と大幅に増加したことは、大いに評価できる。 ◎全学の女性教員比率は中期計画の<20%>を上回る20.6%に達している。 ◎教職員のワーク・ライフ・バランス実現のための支援制度について、利用者の実情に合わせた時期に利用できるようライフイベントに応じた柔軟で効果的な制度に改正した。 ◇国際的研究拠点の形成を目指す研究センターは多様な研究者が研究に取り組める組織として、中期目標計画期間で外国人研究者の比率を30%とする計画を掲げている。平成30年度は14.3%だったが、令和元年度は19.2%と上昇しているが、更なる努力を期待する。			
	1-24	研究センターの質の向上に向けた取組、マネジメントスキル向上に向けた取組	B							
	1-25	海外の有力な研究者等との連携強化	B							
	1-26	若手研究者海外派遣制度の運用	B							
	1-27	国際カンファレンス等での広報活動	B							
	1-28	科研費新規採択率30%達成に向けた取組、国の大型研究プロジェクト獲得に向けた取組	A							
	1-29	研究施設・設備の共用化等に向けた取組	B							
	1-30	研究センターに所属する外国人研究者比率向上に向けた取組、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組、ダイバーシティ施策行動計画に基づく取組の推進、構成員の子育て支援に向けた取組	A							
	<主な実績> [1-25] 研究力強化を図るため、65名の外国人研究者を招へいた。 [1-27] 国の国際研究プロジェクト採択数8件、外国機関との共同・受託研究契約数3件となった。 [1-28] 科研費新規採択率(挑戦的研究(萌芽・開拓)を除く)を【34.1%】とし、国の大型プロジェクト【1件】の採択を獲得した。 [1-29] 文部科学省の先端研究基盤共用促進事業(研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム(SHARE))に採択された。 [1-30] ・研究センターに所属する外国人研究者比率が【19.2%】になった。 ・全学の女性教員比率が【20.6%】になった。 ・ワーク・ライフ・バランス実現のための支援制度について見直しを行うことで、利用者にとってよりライフイベントに応じた柔軟かつ効果的な制度改正となった。 ・外国籍の利用者増にともない、翻訳機を導入し、多言語対応の体制を整えた。							3	高橋	◇研究センター所属の外国人研究者比率が順調に高まってきており、ダイバーシティ面からの研究力拡充に向けた取組みが評価される。
								<参考意見>	3	村瀬
				3	最上	◎先端研究基盤共用促進事業(研究機器相互利用ネットワーク導入実証プログラム(SHARE))に慶應義塾大学(代表機関)、信州大学とともに申請し、採択された。 ◎URAと事務職員が協働して、CFT活動を継続して実施し、5つのCFT活動(科研費、知財、外部資金、産学・地域連携、広報)によって業務を円滑に進めることができた。 ◎国際共同研究契約を3件締結した。 ◎トムス国立大学(ロシア)との共同研究が、JSTの戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)に採択された。 ◎科学研究費補助金の新規採択率が数値目標を超えて達成された(34.1%)。 ◎国の大型プロジェクトを1件獲得することができた。				

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	1 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価			
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目8 都政との連携	1-31	全学的な都連携事業の推進及び学際的大規模プロジェクトの創設・実施、「高度研究」プロジェクトの申請支援強化	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・施策提案発表会の開催、都職員向けの研究シーズ集の試行版作成等、様々な取組を推進し、連携事業件数は前年度101件から171件へと大幅に増加した。また、東京都下水道局と共同研究等を推進するための包括連携協定を締結した。 ・都民に対する障がい者スポーツの理解促進に向けて、体験型のイベントを積極的に開催するとともに、体験教室ごとに対象者層を絞るなど工夫を行うことにより、多数の参加者を得た。 ◇更なる充実が期待される点 ・管理職候補者研修の受託は都立の大学として重要な役割である。経済経営学部だけではなく、多くの学部の教員が講師となって都職員の人材育成に関わることが望まれる。	3	松山	◎都と連携して「高度研究」プロジェクトを推進し、大都市が抱える重要課題に取り組み、アジア諸都市に対して東京が先進的な役割を果たして、都市問題の解決に向かう中核を担っている。 ◎東京2020大会を機に、障害者スポーツの理解促進、ボランティア活動の拡充に取り組んでいる。 ◎東京2020大会の成功に向けて、都民向けに機運醸成に向けて、様々なイベントを企画して、都民の関心を高めるよう努めた。 ◎都市外交人材育成基金による留学生を始め、都立大に留学し、修了した学生のネットワークを構築し、国際共同研究や産学連携等を推進している。	
	1-32	障がい者スポーツの理解促進に向けた取組、ボランティアプログラムの拡充、都民向けの機運醸成のイベント、「ボランティアとリーダーシップ」における取組、「障害者とスポーツ論」における取組、フォーアンユニバーシティ講座を通じた学外向け教育活動、東京2020大会の成功及び大会後も見据えた研究プロジェクトの事業化提案	S		◎1-31 東京都との連携事業が令和元年度は大幅に増加し、全学的な都連携事業の推進が図られてきていることが評価される。 ◎1-32 障がい者スポーツの理解促進に向けた取組としての健康福祉学部主催によるイベントの拡充は、学部の知見を基にした障がい者スポーツの理解促進と、障害者のみならずユニバーサルスポーツとしての普及拡大に貢献するものである。 ◇1-33 管理職候補者研修の受託は都立の大学として重要な役割である。経済学部だけではなく、多くの学部の教員が講師となって都職員の人材育成に関わることが望まれる。	2	島田	
	1-33	都市政策研修・管理職候補者研修の実施、大都市課題解決に係る文理融合型教育の実施に向けた取組	B		◎東京都との連携に係る運営費交付金は前年度に比べ増加しているが、外部資金収入は大きく減少し、全体として減少傾向にある。そのようななか、連携事業件数は前年度101件から172件へと大幅に増加し、連携事業は拡大している。また、40件の施策提案や9件の事業提案を行うなど、積極的に都政に貢献しようとしている。体験教室ごとに対象者層を絞るなど工夫をして、障がい者スポーツへの理解を深める取組が広がっている。	2	杉谷	
	1-34	「高度金融専門人材」の養成及び最先端研究の実施	B		◎都や自治体との連携について、施策提案発表会の開催、事業提案制度への申請、都職員向けの研究シーズ集の試行版作成、都庁内ポータル等の活用等、様々な事業を推進し、強化を図った点が評価できる。施策提案発表会の参加人数は、昨年の591人から956人へと1.6倍に拡大している。都職員に対する研修の充実も図っている点も評価できる。引き続き、都立大の強みを都政に活かすための取組の推進が期待される。 ◎URAの調整により、子どもの貧困調査研究コンソーシアムが設立され、本テーマに関して、全国の調査研究の中心的な役割を担っている点などが評価できる。地元企業等と連携した地域支援のプロジェクトも推進されており、地域社会への貢献の充実も図ることができている。(大項目9に共通) ◎都民に対する障がい者スポーツの理解促進に向けて、障がい者スポーツに関する主催イベントについて、新規の競技も追加し、数多く開催されている点が評価できる。実践で競技を体験できるようにする、運動の苦手な人も参加できるプログラムを提供する、動画を多く組み込んで視覚的に理解促進を図るなど、参加者の特性に応じた様々な工夫を行っている点も評価できる。 ◎東京2020大会を見据え、イベントやボランティアプログラム、講座の充実を図っている点も評価できる。残念ながら東京2020大会は延期となり、新型コロナウイルス禍ではあるが、令和元年度の取組により醸成された機運、都民に蓄積された知識等が、今後開催される東京2020大会に資するよう、現状の環境を踏まえた工夫のもと継続されることが期待される。	1	鈴木	
	1-35	修了生・在学生と大学とのネットワーク構築に向けた取組、高度研究を通じた支援、帰国留学生短期研究支援制度の運用	B		◇都職員、管理職候補者を対象とする都市政策研修は、一層拡充される価値があると考えられる。	3	高橋	
	1-36	都関連研究機関との連携強化に向けた取組	B		◎延期となったとはいえ、オリ・パラ向けの積極的な取組みと成果は評価できる。また、「障がい者スポーツの理解促進(1-32)は素晴らしい取組みであり、パラリンピック終了後も都立大が「世界の先進事例」となるよう多角的に進めて頂きたい。 ◇足下の重点課題(感染症対策と都市機能の維持)にも是非取組み、その成果を是非アピールして頂きたい。また、緊急時のマネジメントや過重負荷分散にも目配りした人材育成支援にも注力し、世界に誇れる「東京人材」を育てていただきたい。	2	村瀬	
	<主な実績> [1-31] 高度研究に2件採択された。 [1-32] ・「ユニバーサルスポーツ体験教室」等、障がい者スポーツに関するイベントを新規で7件開催した。 ・全学共通科目「ボランティアとリーダーシップ」におけるボランティア活動により、ボランティアセンターが提供する「ボランティア・プログラム」への登録・参加に繋がった。 [1-35] 新たに国際共同研究を1件採択した。		<参考意見> ・足下の重点課題(感染症対策と都市機能の維持)にも是非取組み、その成果を是非アピールして頂きたい。また、緊急時のマネジメントや過重負荷分散にも目配りした人材育成支援にも注力し、世界に誇れる「東京人材」を育てていただきたい。		3	最上	◎都民に向けた障がい者スポーツの理解促進と裾野拡大の取組がなされている。 ◎授業科目としてボランティア学習がボランティアセンターでのプログラムへの参加を促進している。 ◎「プロジェクト型総合研究」の実施が進んでいる。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	1 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価			
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)	
大項目9 社会貢献等	1-37	外部資金獲得促進の為に施策の策定、技術移転活動の強化に向けた取組、大学発ベンチャー支援促進	B	◎ 優れた点・特色ある点 ・TMUプレミアム・カレッジを開講し、学習意欲の高いシニアへ体系的なカリキュラムを提供した。令和2年度の本科の入試では募集人数を大きく上回る出願者を得た。さらに、2年目も学び続けられる専攻科を設置し、カレッジへの満足度が高い。	1	松山	◎新たに都立大発ベンチャー企業2社への支援を承認し、中期計画を上回る合計12社となった。技術移転活動の強化等による研究成果を社会に還元している。 ◎TMUプレミアム・カレッジを開講し、学習意欲の高いシニアへ体系的なカリキュラムを提供した。令和元年度入学の第1期生は定員の6倍の志願者があり、53名が学んで1年間の課程を修了した。令和2年度入学の第2期生も志願者は3倍を超える志願者があった。 ◎TMUプレミアム・カレッジを修了し、さらに学ぶ意欲のあるシニアに専攻科を設置し、36名が進学した。 ◎TMUプレミアム・カレッジは都立大が有する豊富な教育研究資源を活かすと共に、シニアの学ぶ意欲に応える新たな学びとして高く評価される。この後の発展が期待される。		
	1-38	他大学・研究機関等との連携強化、多摩地域における産学公連携の取組	B				3	島田	◎1-40 TMUプレミアムカレッジにおいて専攻科の整備に取り組むなど、受講者のニーズに合ったプログラムの充実が図られている。
	1-39	地域課題解決に向けた関係機関との連携強化	B				2	杉谷	◎TMUプレミアム・カレッジには募集人員を大きく上回る出願者があり、そのニーズの高さがうかがえる。カレッジでは科目等履修という形で、学部生とともに学ぶ機会なども設けられている。2年目も学び続けられるように設置された専攻科には修了生の約7割が出願していることから、カレッジへの満足度と学習意欲がかなり高いものと考えられる。
	1-40	オープンコースウェアの充実に向けた取組、連携講座の実施、オープンユニバーシティ講座の体系・内容の見直し、公開講座のオープンコースウェア化へ向けた取組	A						
	1-40-2	TMUプレミアム・カレッジの開講	S				2	鈴木	◎TMUプレミアム・カレッジについて、都立大の特色を活かした新しい中高年層の学びのスタイルにより、充実したカリキュラムが提供され、全員が高い満足度をもって修了した点が評価できる。令和2年度入学の出願者獲得のためのイベントにも多くの参加があり、募集人数を大きく上回る出願者を得ている。さらに、専攻科を設けて、学びの継続を図っている点も評価できる。 ◇オープンコースウェアの充実に向けて、TMUプレミアム・カレッジや高校生向け特別講座など、多様なコンテンツの追加が行われた点が評価できる。今後、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からも、インターネット上の公開講座へのニーズが高まると思われることから、より多くの学びのニーズに対応できるよう、周知や公開ページの構成の工夫等が行われることも期待される。
	<主な実績> [1-37] ・共同研究・受託研究による外部資金について、第二期中期計画期間の平均金額比で【147%】獲得した。 ・大学発ベンチャーを新たに2社支援し、累計で【12社】の設置となった。 [1-40] 講座体系のジャンル区分について、「カテゴリー」あるいは「テーマ」として再編した。 [1-40-2] ・TMUプレミアム・カレッジを開講し、53名のカレッジ生に対し、「学び」と「新たな交流の場」を提供した。 ・令和2(2020)年度からの専攻科の開講に向けた準備を行った。								
				2	高橋	◎TMUプレミアム・カレッジが盛況であり、また学び続ける仕組みとして「専攻科」が設置された。			
				3	村瀬	◎TMUプレミアムカレッジなど人生100年時代の生涯学習への取組みと成果を高く評価。 ◇TMUプレミアムカレッジ以外の大学発ベンチャー支援(1-37)や企業・他大学との連携イノベーション、地域課題解決に向けた連携など自己評価「B」項目の成果を加速するための取組み(ボトルネックの分析と対策具体化)を期待したい。			
				2	最上	◎オープンユニバーシティ講座の体系・内容の見直しに取り組んでいる。 ◎TMU プレミアム・カレッジが開講され、その評判が高まっている。			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置	
-------------	---	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目10 グローバル化 【教育の国際通用性、学生の海外派遣の拡充及び外国人留学生の受入れ】	1-41	四半期授業の環境整備・試行状況及び科目ナンバリングの公開及び活用方法の周知	B	<p><評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・IB(国際バカロレア)入試実施3年目で初めて2名の志願者(募集人員2名)があり、1名が合格となった。</p> <p>・海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。</p> <p>・都市外交人材育成基金で優秀な留学生を大学院生として40名を受け入れている。</p> <p>◇更なる充実が期待される点 ・海外留学等派遣者数について、昨年度と比較して、短期の人数は変わらないが、長期、中期の人数がいずれも減少している。新型コロナウイルスの影響により、留学が難しい状況も予想されるが、留学に対する学生の関心が高まっていることも踏まえ、留学時期を見据えながらの長期的な支援等が行われることが期待される。</p> <p>▲改善すべき点 ・新型コロナウイルスの影響もあり、留学生受入れの数値目標900人は達成困難な見込みであるため、今後は、留学生生活満足度等、「質」の向上に取り組まれたい。</p>	3	山松	◎留学が必須のカリキュラムである国際副専攻コースの学生は定員の80%は確保され、広報活動と教育内容の改善の効果が徐々に浸透しつつある。 ◎海外派遣留学生は毎年増加している。渡航前の研修や派遣時の経済支援を着実にこなしている。また、渡航中の学生の安全確保のための危機管理マニュアルの策定と指導を実施している。 ◎留学生受け入れの広報活動で受入れ学生は増加しているが、中期計画で目指す学生数には達していない。 ◎短期留学生受入れプログラム(SATOMU)を再構築し、語学プログラムを幅広く改訂して、学生の留学目的に合った教育プログラムとした。 ◎都市外交人材育成基金で優秀な留学生を大学院生として40名を受け入れている。 ◎アジアの高度先端医療者育成事業として、都市外交人材育成基金により、本年度は留学生を5名受入れ、7名を修了させた。各国の医療水準の向上に貢献している。	
	1-42	国際社会で活躍できる人材の育成に資する取組	B				◎学生の海外派遣のための事前・事後研修実施が徹底されており、参加者数が100名以上増加している。	
	1-43	国際副専攻コースの着実な運用及び広報活動の積極展開等、奨学金プログラムの運用、学生の留学意欲の向上に向けた取組等	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-44	外国語教室の設置、英語による授業科目数増加に向けた取組、英語教育の改善に向けた取組	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-45	企業インターンシップの拡充、海外企業インターンシップの拡充	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-46	受入留学生数増加に向けた広報展開、短期留学生への教育の充実、短期集中コースの運用体制の強化	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-47	都市外交人材育成基金を最大限活用した留学生受入へ向けた取組	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-48	アジア各国における医療水準の向上のための留学生の受け入れ、アジア各国の大学や医療機関等への技術支援の実施	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-49	留学生の受入環境の整備、留学生の出願や入学に係る手続きの円滑化	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
	1-50	異文化理解講座・留学生セミナー等の実施	B				◎海外派遣に関する事前・事後研修の中でも、危機管理講座の参加人数が大幅に増加しているとともに、新たに危機管理マニュアルを策定するなど、学生の安全管理、大学のリスク管理体制の充実が図られている。	
<p><主な実績> [1-43] ・交換留学及び派遣留学における留学成果の把握を目的として、新たにジェネリックスキルを測るアセスメントの導入を検討し、44名に施行実施した。 ・【232名】の学生を海外へ派遣した。 [1-46] ・在籍留学生が【661人】となった。 ・短期留学生受入プログラム(SATOMU)を再構築し、プログラムが提供する英語実施科目を拡充させ、平成30(2018)年度の66科目から114科目とした。 [1-47] 都市外交人材育成基金により【40人】の留学生を受け入れた。 [1-49] 自治体と協議し、留学生受入時の市役所手続きを国際学生宿舎で行えるようにした。</p>				<p><参考意見> ・国際交流協定は様々な国(大学)と締結しているが、中国を除く上記の国々や欧米(ロシアを含む)等からの留学生が非常に少ないことについては別途取組をお願いしたい。</p>				
				3	村瀬	<p>◎留学や派遣にあたって(事前事後の)研修参加人数が大幅に増えていることを評価したい。特に留学報告会の参加人数が倍増したことに注目したい。 ◇留学生・外国人教員に対し定期的なアンケート調査・分析を実施していただきたい。 ▲新型コロナウイルスの影響もあり、留学生受入れの数値目標900人はいったん凍結しても良いのではないかとと思う。その代わり、受入れている留学生生活満足度向上(アンケート調査で測定)や留学生の出身国の多様化に注力するなど「質」の向上に取り組んで頂きたい。(昨年度の「評価委員会コメント」でも国籍の多様化を要請していたが、具体的な取組が今一つ不明確である。香港での説明会中止は理解できるが、マレーシア・インドネシアの中止は納得できない。) (参考) 中華人民共和国 人口10億人 留学生440人(留学生全体の約70%) インド 人口13億人 留学生11人 インドネシア 人口2.6億人 留学生27人 ブラジル 人口2億人 留学生5人 アフリカ(全体) 人口10億人 留学生4人(うちエジプト2人) 国際交流協定は様々な国(大学)と締結しているが、中国を除く上記の国々や欧米(ロシアを含む)等からの留学生が非常に少ないことについては別途取組をお願いしたい。 ちなみにGCPで訪問しているシンガポールからの留学生はいまだに1人もいない。</p>		
				2	最上	<p>◎科目ナンバリング制度が浸透しつつある。 ◎IB(国際バカロレア)入試による入学者があった。 ◎大学院へ優秀な外国人学生を受け入れに都市外交人材育成基金が活用されている。 ◇「人間健康科学研究科教員のアジア諸国大学等への派遣と、現地の大学教員等の日本への受入れ」(1-48)について具体的なデータを示して評価して欲しい。 ▲英語教育の充実(1-44)がどのように日本人学生の留学を促進する教育環境の充実で反映されたかを記載すべき。「令和元(2019)年度に実施する新プログラムの成果及び内容を検証(1-45)」に該当する記載がない。</p>		

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	I 東京都立大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目11 グローバル化 【海外大学等との連携、都市外交を支えるネットワーク形成及びキャンパスの国際化】	1-51	国際交流協定校の拡大、交流重点校の指定に向けた取組	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・多数の海外の大学から参加者が集い、大規模な五大陸国際学生シンポジウムが開催された。都立大学の学生との研究交流になるとともに、東京2020大会関連施設や都内施設の視察を含む貴重な機会となり、公立の都立大学ならではの充実したプログラムであった。 ◇更なる充実が期待される点 ・外国人教員比率を5%とする計画に対して本年度は3.6%である。グローバル化に向けた取組の一環として、適材適所を配慮しながら、外国人教員の採用が効果を上げる分野の採用を期待したい。	3	松山	◎交流重点校と共同シンポジウムを開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため延期した。 ◎五大陸国際学生シンポジウムを開催し、海外から95大学の学生が参加し、海外の学生との交流を通して、都立大生の国際感覚の涵養に繋がった。 ◎教職員の国際化への取組の一環として、TOEICスコアが600点以上の職員を25%以上を目指しているが、本年度は22%であり、順調に伸びている。 ◇外国人教員比率を5%とする計画に対して本年度は3.6%である。グローバル化に向けた取組の一環として、適材適所を配慮しながら、外国人教員の採用が効果を上げる分野の採用を期待したい。
	1-52	若手研究者海外派遣制度の運用等	B		3	島田	
	1-53	国際カンファレンス等での広報活動	B		3	杉谷	◎多数の海外の大学から参加者が集い、大規模な五大陸国際学生シンポジウムが開催された。都立大学の学生との研究交流になるとともに、東京2020大会関連施設や都内施設の視察を含む貴重な機会となり、公立の都立大学ならではの充実したプログラムが組まれていて評価できる。 ◇国際交流協定校の拡充や交流重点校との教育・研究交流の強化など、グローバル化の取組は着実に積み重ねられているが、すでに新型コロナウイルス感染症の影響により遅延や実施困難な状況が生じていると思われる。これまでの実績に基づき、信頼関係を維持しつつ、安全・安心・可能な形で国際交流の実現に向けて、今後の新たな展開を期待したい。
	1-54	外国人研究者等受入れ環境の整備	B		2	鈴木	◎東京2020応援プログラムとして五大陸国際学生シンポジウムの開催にあたり、様々な大学・機関への働きかけを行い、多くの国、大学からの参加を得ている点が高く評価できる。海外の学生が東京への理解を深めたり、都立大の学生との交流を深めるためのプログラムの工夫も行われている。
	1-55	修士生・在学生と大学とのネットワーク構築に向けた取組	B				
	1-56	学内文書等の多言語化への取組	B		3	高橋	
	1-57	外国人教員比率の向上に向けた取組、国際化に対応できる職員を育成する機会の提供、職員の語学力の向上に向けた取組	B		3	村瀬	◎アジアの医療者教育(1-48)やAIMSプログラム(1-51)は高く評価したい。特に1-48は直近の新型コロナウイルス感染対策において「日本(東京)方式」を理解してもらった絶好の機会ではないかと思われるので、今後の進展に期待したい。 ◇五大陸国際学生シンポジウムは大きな成果といえるが、その成果を踏まえアフリカや中南米等との定期交流(留学生受入れを含む)を活性化していただきたい。
	<主な実績> [1-51] ・交流重点校向けの経済支援を活用し、留学生の受入れや派遣を行った。 ・「グローバル・ディスカッション・キャンプ(GDC)」を令和2(2020)年度の正式開催に向けてレスター大学と施行開催した。 ・五大陸国際学生シンポジウムを開催し、海外から24の国と1つの地域、95大学の参加があった。 [1-57] ・外国人教員比率は【3.6%】となった。 ・TOEIC600点以上の職員比率は【22%】となった(平成30(2018)年度比0.9ポイント増加)。				2	最上	◎グローバル・ディスカッション・キャンプ(GDC)をレスター大学(イギリス)と試行開催し、両大学の学生が一週間にわたり、グループ討議及び合同プレゼンテーションを行った。 ◎五大陸国際学生シンポジウムを開催し、国内外から多くの参加者があった。 ◇中期計画に掲げた数値目標の達成。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育の内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目12 教育内容及び教育の成果等	2-01	教育プログラムの開発・設計、カリキュラムの見直し	S	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・企業における新規事業開発や起業・創業を担う人材を育成する新しい学位プログラムを導入するため、現在の2専攻体制から1専攻3コース体制への研究科再編を行った。 ・産技大の特色としてのPBL教育について、成果発表会を通じて、学生へ還元するとともに、社会に対して情報発信を行っている。また、検討部会を継続して実施することで、PBL教育に関するPDCAサイクルを強化している。 ・アクティブ・ラーニングを導入している科目が86.7%に達した。	2	松山	◎研究科再編により、現在の2専攻体制から1専攻3コース体制への変更を文部科学省に届けて、予定通りの体制で令和2年度からスタートすることとなった。教育改革は順調に推移している。 ◎先駆的に取り組んできたPBL (Project Based Learning) 教育に関するPDCAサイクルを強化した。 ◎アクティブ・ラーニングを導入している科目が86.7%に達している。対面授業と録画授業を併用した講義スタイルは新型コロナウイルス禍にある国内の大学の講義のモデルとなっており、評価方法や成果に対する期待は大きい。	
	2-02	PDCAサイクルの各要素の強化、PBLに対する評価指標の検討、実施、PBL成果報告書の作成、「AIIT PBL Method」の社会への発信	A		2	島田	◎研究科の再編という大きなプロジェクトを着実に成し遂げた	
	2-03	アクティブ・ラーニングの積極的導入のための新たな教育手法の開発、教育の質の保証の可視化の推進	B		2	杉谷	◎研究科再編の届出が附帯事項を含む指摘がなく、届出通りに設置されたことは十分に計画された学位プログラムであったと評価できる。 ◇引き続き、産技大独自のPBL型教育方法論の特徴が明確になるように広く教育成果を発信していくことが期待される。	
	<主な実績> [2-01] 令和2 (2020) 年度の研究科再編による起業・創業・事業承継を視野に入れた学位プログラム実施に向け、時間割やシラバスを整備した。 [2-02] PBL検討部会を【年4回】開催した。 [2-03] アクティブ・ラーニングを導入している授業科目が【86.7%】に達した。				2	鈴木	◎1専攻3コース体制への研究科再編について、文部科学省への届出書類の提出と承認を経て、令和2年4月1日開設に向けて、順調にシラバスや時間割の整備、教材開発等の準備が進められた点が評価できる。 ◎PBLプロジェクト成果発表会を開催し、300名を超える来場者を獲得している。特色ある取組を広く一般に周知するとともに、来場者から意見を収集する工夫を行い、学生へのフィードバックともなった点が評価できる。	
					2	高橋	◎AIITの特色としてのPBL教育について、成果発表会を実施して、学生への還元や、社会への発信になっていること、及び、検討部会を継続して、PBLに磨きをかけていることを高く評価する。教育の質、成果を地道に上げていくための確実な方法ではないかと思われる。 ◇新規事業開発、起業・創業・事業承継支援に向けた研究科再編やカリキュラム見直し、計画通り進んだことを評価する。この再編・見直し、社会の要請を捉えた時宜を得たものであったと実感できるための基礎作りになるよう、この中期計画中残りの期間での実践への期待は大きい。	
					2	村瀬	◎学長のリーダーシップの下で研究組織の再編やカリキュラム見直しを継続的に行っていることを高く評価したい。学内での議論、検討するプロセスも十分機能している。	
					2	最上	◎研究科の再編を行うにあたり、新たな学位プログラムに応じたカリキュラムの整備を行った。 ◎教育効果が見込まれる科目に積極的にアクティブ・ラーニングを導入した。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目 II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置
 1 教育に関する目標を達成するための措置
 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価			
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目13 教育の実施体制等 【産業界や他大学との連携による教育実施体制の整備、東京都立大学及び東京都立産業技術高等専門学校との連携】	2-04	産業界ニーズの教育体制への反映、PDCAサイクルの各要素の強化、研究科及び専攻の教育体制の在り方の検討、実施	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・第2期enPiT、AIIT起業塾など、他大学と連携した事業を通じて、産技大の知見や資源を有効に活用した特色ある事業が行われている。 ▲改善すべき点 ・教育・研究における都立大・高専との連携が望まれて中期計画の大きな柱となっていながら、進展が鈍いように見える。そもそも、その連携を企画することに無理があるのか、現場では効果がないと考えられているのか、理由は不明であるが、この目標を、実質的に再検討しなければならないのではないか。産技大主導ではなく、法人主導でないと、その見直しも出来ないテーマであると思われる。	3	松山	◎実務家教員を3割以上確保し、専門職大学院の法令を遵守している。 ◎enPiT（成長を支える情報技術人材の育成拠点の形成）に参加し、本学が作成したビデオを提供した。 ◎APEN総会を八丈島で開催し、東南アジア諸国の大学から参加があり、連携公開講座やワークショップを開催した。	
	2-05	他大学等との連携による教育の普及、関係機関との連携強化、交流促進等	A		2	島田		
	2-06	高専出身者の確保、産技高専との連携強化、2大学1高専の連携	B		3	杉谷		
	<主な実績> [2-04] ・将来構想検討委員会の下部組織である研究科再編WGを中心に検討を重ねた結果を踏まえ、研究科再編に係る設置届出を文部科学省に提出した。 ・実務家教員割合概ね【3割以上】を維持した。 [2-05] 他校と連携し文部科学省補助事業のenPiT（第2期）を実施した。 [2-06] 産技高専において産技大の教員が2科目の授業を実施するなど、産技高専との連携強化につなげた。				2	鈴木	◎第2期enPiT、AIIT起業塾など、他大学と連携した事業を通じて、産技大の知見や資源を有効に活用するとともに、それぞれの大学の強みを生かした特色ある事業が行われている点が評価できる。今後、新たな連携事業への発展が期待される。また、APEN島しょ復興プロジェクトも、APEN発足初となる総会やワークショップを開催するなど、海外の大学との連携の充実も図られている。	
					<参考意見>	3	高橋	▲教育・研究における都立大・高専との連携が望まれて中期計画の大きな柱となっていながら、進展が鈍いように見える。そもそも、その連携を企画することに無理があるのか、現場では効果がないと考えられているのか、理由は不明であるが、この目標を、実質的に再検討しなければならないのではないか。産技大主導ではなく、法人主導でないと、その見直しも出来ないテーマであると思われる。
						3	村瀬	◎AIIT起業塾は今後の展開も含めて注目に値する。特に海外からも多数の地域からの参加があることを評価したい。今後定期・継続的な人材交流につながることを期待。 ◇実務家教員割合は既に目標の「概ね3割」を達成しているが、今後注力する起業・創業者継承分野強化に向けてさらに比率を高めても良いのではないか。
						3	最上	◎enPiT 教員及び連携企業人向けのFD合宿を開催した。 ◎AIIT 起業塾公開講座、第1回 APEN 総会及び島しょ復興ワークショップ等の新たな連携事業を実施した。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目14 教育の実施体制等 【教育の評価・改善】	2-07	PDCAサイクルによるマネジメント機能の強化、アクティブ・ラーニングの積極的導入のための新たな教育手法の開発、授業改善のための研究会枠組みの構築、FDフォーラムの開催による教育の質の向上	S	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・FDフォーラムへの教員参加率が100%であること、学生に対して事業評価アンケートを実施していること等、組織としてPDCAが有効に機能している。 ・授業評価アンケートで全授業の評価が平均 4.37となり、平成 29(2017)年度から3か年連続で前年度を上回る高評価を得た。	2	松山	◎FDフォーラムを2回開催し、教員は後日の視聴参加者を含め、全員が参加した。FDフォーラムに直接出席できない教員が、後日、ビデオを通して参加するのは有効な方法であり、今後、他大学でも活用されるであろう。
	2-08	機関別認証評価の受審、情報アーキテクチャ専攻の分野別認証評価の受審準備、創造技術専攻の分野別認証評価を踏まえた改善策の実施	B		3	島田	
	<主な実績> [2-07] ・運営会議での進捗管理及び自己点検・評価委員会の任務見直しにより、PDCAサイクルによるマネジメント機能を強化した。 ・教育の質の向上を図るためFDフォーラムを開催し、後日視聴含め【100%】の教員が参加した。 ・学生の授業評価アンケート結果で【4.37】の評価を得た。 [2-08] 機関別認証評価を受審した結果、「適合」の評価を受けた。				3	杉谷	
					2	鈴木	◎運営会議や自己点検・評価委員会を定期開催とすることにより、年度計画の進捗が管理されるなど、PDCAサイクルによるマネジメント機能の充実を図った点が評価できる。 ◎AIIT高度専門職人材教育研究センターを新たに設置して、新規教員に対する授業設計ガイダンスを行う等、教育の質を高めるための取組を充実した点が評価できる。授業評価アンケートも前年度を上回る結果を得ている。
					1	高橋	◎学生の授業評価アンケートが、3年連続して前年度を上回り、今年度は4.37となっていることを評価する。教授法や講義内容の改善に関するFDや、PDCAの成果であると考えられるので、持続した努力が望まれる。
					2	村瀬	◎従来からの継続であるが、FDフォーラムへの参加が100%、学生へのアンケートを実施していることなどは素晴らしい取組みであり、組織として健全なPDCAが回っていることを証明している。 ◇アクティブラーニングや遠隔授業などは足下の(コロナウイルス)状況に鑑みてさらに拡充を期待したい(「遠隔授業の課題や問題点」についても評価分析して頂きたい)
					2	最上	◎授業評価アンケートで全授業の評価が平均 4.37となり、平成 29(2017)年度から3か年連続で前年度を上回る高評価を得た。 ◎認証評価を受審し、大学基準に「適合」と認定された。
						<参考意見> ・アクティブ・ラーニングや遠隔授業などは足下の(コロナウイルス)状況に鑑みてさらに拡充を期待したい(「遠隔授業の課題や問題点」についても評価分析して頂きたい)。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する取組を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目15 学生への支援	2-09	効率的な学修環境の提供、充実した学生指導の実施、学修コミュニティの更なる充実、リカレント教育の場を構築・提供	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・1年生全員に担任教員が面談し、様々な指導を行なっている。 ・ブレンディッド・ラーニング(録画講義と対面講義)が機能し、学生アンケートによると授業に対するモチベーションや理解度が上昇した。	3	松山	◎1年生全員に担任教員が面談し、様々な指導を行なっている。 ◎ブレンディッド・ラーニング(録画講義と対面講義)が機能し、学生アンケートによると授業に対するモチベーションや理解度が上昇したと評価している。
	2-10	多様な学生にきめ細かに対応したキャリア開発支援の実施	B		3	島田	
	<主な実績> [2-09] 両専攻の1年生【全員】に対し、担任による面談を実施した。 [2-10] キャリアメンター制度について、試行結果に基づき、見直しを実施し、令和2(2020)年度より改めて試行することとした。				3	杉谷	
					3	鈴木	◇ブレンディッド・ラーニングや秋葉原サテライトキャンパスへの遠隔授業等、働きながら学ぶ社会人に対する柔軟で効果的な授業の工夫が行われている点が評価できる。遠隔授業実績について、前年度と比較すると、受講者(実人数)がやや減少しており、引き続き、効率的な学修環境の整備の推進が期待される。
					3	高橋	◇このコロナウィルス禍において、期せずして、ブレンディッド・ラーニングへの期待は大きくなった。いかにして、録画授業、そしてWEBを用いた対面授業と、リアルな実際の授業を組み合わせるのが総合的に見て学修効果が高いのか?この課題に、試行錯誤で継続して取り組んでいただき、次代の教育の在り方を提示して頂きたい。
					3	村瀬	◎学生数が比較的少ないとはいえ、入学生全員との面談実施などが着実に実行されていることは特筆すべきであり、キャリアメンターの改善で更にきめ細かいフォローができるものと思われる。
				3	最上	◇「丁寧な就職相談によって、学生の希望を把握し、希望する就職先を紹介できるよう努めた」結果を反映するような資料の掲載が望ましい。図表2-10-1 修了進路状況における、「その他」の説明など。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学選抜に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目16 入学選抜	2-11	積極的な情報発信、単位バンク生の更なる確保と正規入学に向けたアプローチ、大学院説明会への参加者確保、未来のプロフェッショナルの発掘・育成のためのコンテストの実施	S	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・ホームページの全面リニューアル、研究科再編の特設ページ開設、駅における交通広告等、戦略的、効果的な広報活動が行われた。その結果、大学院説明会への参加が410名と開学以来最多となるともに、新専攻となつての初の入試において、十分な志願者数を確保できた。 ・単位バンク制度が順調に運営され、単位バンク利用者が増加している。	1	松山	◎志願者が着実に増加していることは評価できる。ロールモデル集の活用、企業訪問、HPの改訂、入試情報のSNSによる発信などを通じた学生確保の取組は功を奏して、志願者は着実に増加している。また、単位バンク制というユニークな方法で志願者が応募しやすい環境を作ってきたことも評価できる。
	<主な実績> [2-11] 様々な媒体で産技大の教育成果を発信し、【410名】の大学院説明会参加者を集めた。単位バンク生から24名の入学者があり、単位バンク生向け入試に9名の受験者（うち9名入学）があった。				2	島田	◎入試説明会の参加者を大幅に伸ばし、定員確保につながった
					2	杉谷	◎積極的な広報により大学院説明会への参加が前年よりも大幅に増加し、開学以来最多となった。また、AIIT単位バンク制度も正規の入学につながる道として活用されている。
					1	鈴木	◎ホームページの全面リニューアル、研究科再編の特設ページ開設、駅における交通広告等、戦略的、効果的な広報活動が行われた点が評価できる。ホームページは大変分かりやすく構成されている。新専攻となつての初の入試において、十分な志願者数の確保にもつながっており、周知・広報の効果としても評価できる。
					2	高橋	◇ロールモデル集の充実、HPの改修をはじめとして、積極的な情報発信により、志願者数、入学者数等が漸増傾向にあるのは望ましい。日本社会において未成熟な分野としての社会人再教育の面で、本学が果たす役割は極めて大きく、一層、社会的注目を集める存在になることが期待される。
					2+	村瀬	◎特記にあるように強力かつ多様な情報発信に取組み、説明会参加者を従来の5割増としたことは入学選抜単位バンク制など学生目線での新たな取組みに注目している。また、単位バンク制やコンテストなど積極果敢に新しい取組みを行っていることは称賛に値する。
					2	最上	◎積極的な情報発信を行うことで志願者が増加し、十分な定員を確保することができた。 ◎単位バンク制度が順調に運営され、単位バンク利用者が増加している。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価				
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)		
大項目17 研究	2-12	PBL型教育の研究、アクティブ・ラーニングの積極的導入のための新たな教育手法の開発	B	◎ 更なる充実が期待される点 ・専攻横断型の研究所を更に活用し、研究成果の社会への還元を積極的に進め、社会のニーズに応じていくことを期待する。	3	松山	◎全学的な研究テーマとして、「PBL教育についての今後」に取り組んでいる。 ◎産技大の研究成果の社会への還元を積極的に進め、社会のニーズに応じていただくよう期待する。特に、専攻横断型・分野横断型の研究所の研究成果を期待する。			
	2-13	高度専門職人材教育研究センターの設置、「AIIT PBL Method」の社会への発信	B				3	島田	◎2-13 計画どおりAIIT高度専門職人材教育研究センターが設置され、高度専門職人材育成の教育に関する研究成果を今後発信していく体制が整えられた。	
	2-14	研究所の的確な運営、産業振興に資する教育研究の更なる推進	A				3	杉谷		
	<主な実績> [2-12] 【90%以上】の教員参加によるPBL研究会を開催した。 [2-13] AIIT高度専門職人材教育研究センターを設置した。 [2-14] 【4つ】の開発型研究所を運営した。							3	鈴木	◎研究所の設置・運営について、新規に3件の応募を受け、令和2年より6研究所の運営へと拡大した点が評価できる。
								3	高橋	◇PBL型教育の研究は、地道な改善、日々の努力が大切であり、また数値による成果やイベントの形になりにくいところでもあり、こうした評価にもなじみにくいジャンルである。しかし、本学の教育の特徴、存在価値を強化する重要な活動であり、着実な充実が期待される。
								3	村瀬	◎産技大が誇る「AIIT PBL Method」についての研究成果を国内外に向けて発信していることを高く評価したい。但し発信先については戦略的にターゲットを絞り込んで重点的に発信していく方が効果的ではないか(報告書では「社会へ発信」と記載)。 ◇4つの「専攻横断型研究所」で「(個人の)権利制限と社会防衛」「3密を避けるためのICT活用」といったテーマに取り組み、成果を発信して頂きたい。
								3	最上	◇設置された研究所の実績評価を行う制度についても記載があった方がよい。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目18 都政との連携	2-15	都や区市町村への政策課題に対する支援、東京2020大会の開催に向けた取組	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・都や区市町村等との連携による講座やイベント等を通じて、中小企業振興等の政策課題に対するシンクタンク機能を発揮し、産技大教員の知見をPRすることとどまらず、中小企業振興や技術支援に貢献している。 ◇更なる充実が期待される点 ・より広範な市区町村との連携を期待する。	3	松山	◎東京都等が主催する講座等で、講師として講演し、中小企業振興や技術支援に貢献した。 ◇都や区市町村等に更なる働きかけを行い、市民講座、技術移転講座などを開設して、経験豊富な教員、最先端技術を持つ教員の能力を活かし、貢献していただきたい。
	2-16	都・区市町村等への研修実施等を通じた人材育成支援	B		3	島田	
	<主な実績> [2-15] ・都や区市町村の政策課題への支援として、イベントへの参加や講座を開催し、中小企業振興や技術支援に貢献した。 ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、東京2020大会）に関連するテーマのPBLを【2つ】実施した。				2	杉谷	◎都や市区町村等との連携による講座やイベント等を通じて、中小企業振興等の政策課題に対するシンクタンク機能を発揮し、産技大教員の知見をPRすることとどまらず、中小企業振興や技術支援に貢献している。
	[2-16] 都・区市町村等の職員向けの研修や公開講座を【14講座】開講した。				2	鈴木	◎都や市区町村等と連携したイベントや講座の開催を通じて、中小企業振興や技術支援に貢献する活動が行われている。また、包括協定を締結している品川区では、区内事業者へ支援も行われており、産技大の知見を地域社会で役立てる取組が推進されている点が評価できる。
					3	高橋	◇「自治体職員の人材育成への強力」において、都・区市町村の職員向けの研修や公開講座が盛んに実施されている。ここはさらに踏み込んで、職員のリカレント教育として継続的に学生として受け入れる体制をつくれぬか？公共政策研究、自治体行政の進化のためにも、有意義なプログラムになるのではないかな。
					3	村瀬	◎オリ・パラへの支援以外にも東京都や市区町村の政策課題への支援を行っていることを評価したい。但し、職員向けの研修や公開講座についてはやや対象に偏りが見られるのが惜まれる(鳥取/米子市と三鷹市が目立つ)。 ◇より広範な市区町村との連携を促進していただきたい。
					2	最上	◎前年度に品川区との連携・協力に関する包括協定の締結したことを契機に、新規に品川区と産学連携事業(技術指導)を実施し、区内事業者への支援を行った。 ◎都・区市町村等自治体職員向けの研修や公開講座を数値目標(10)を上回って14講座開催した。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目19 社会貢献等	2-17	産業振興施策への貢献、中小企業支援の実施、AIITシニアスタートアッププログラム実施に伴う連携	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・学外も対象としたAIITマンスリーフォーラムの開催、修了生を継続して支援するための修了生コミュニティの運用など、継続的に修学できる場を多面的に整備し、推進している。 ・社会人の学びやすさを考慮して、より短期間に初歩から応用まで学べる履修証明プログラムとして、AIITシニアスタートアッププログラムを開講した。 ◇更なる充実が期待される点 ・専門職コミュニティ形成促進のためのAIITマンスリーフォーラムについて、回数・参加者が、平成29年度19回991人、平成30年度18回985人、令和元年度13回693人と減少傾向にある。大学の知名度・存在感の向上のためには意義深い活動と思われるので、今後の取組に期待したい。 <参考意見>	3	松山	◎AIITマンスリーフォーラムを合計13回開催し、合計で693名が参加したが、前年度は18回の開催で、985名の参加があったので、本年度は開催回数、参加人数とも前年度より大幅に減少した。 ◎AIITシニアスタートアッププログラムを開講し、起業に挑戦するシニア層を後押しするプログラムで、本学の教員に加え、第一線で活躍している講師を招いて講義を行なった。最終的に21名の修了生を輩出した。
	2-18	学修コミュニティの更なる充実、修了生を支援する仕組みの構築、社会人を対象としたキャリアアップや学び直しの場の提供	S		2	島田	◎2-18 修了生コミュニティ数が拡充され、修了生を支援する仕組みの充実が図られている。 ◎2-18-2 AIIT シニアスタートアッププログラムが開講し、シニア層の起業・創業・事業承継等の支援の充実が図られた。
	2-18-2	AIITシニアスタートアッププログラム開講によるリカレント教育の場の提供	S		2	杉谷	◎社会人の学びやすさを考慮して、より短期間に初歩から応用まで学べる履修証明プログラムとして、AIITシニアスタートアッププログラムが開講されたことは履修者の便宜に供するものである。
	<主な実績> [2-17] 産業振興に資するイベント等を通じて、産技大のノウハウを広く周知し、地域振興に寄与した。 [2-18] ・AIITマンスリーフォーラム等公開講座を計13回開催し、【693人】が参加した。 ・新たに2つの修了生コミュニティが加わり、合計5つの修了生コミュニティの活動を支援した。 [2-18-2] 事業開始2年目となるAIITシニアスタートアッププログラムを新たに履修証明プログラムとして開講した。				1	鈴木	◎学外も対象としたAIITマンスリーフォーラムの開催、修了生を継続して支援するための修了生コミュニティの運用など、継続的に修学できる場を多面的に整備し、推進している点が評価できる。AIITシニアスタートアッププログラムを履修証明プログラムとして提供するとともに、「職業実践力育成プログラム」における短時間で編成される特別の課程としても認定されている。生涯現役都市の実現に資する取組が推進されている。
					2	高橋	▲専門職コミュニティ形成促進のためのAIITマンスリーフォーラムについて、回数・参加者が、29年度19回991人、30年度18回985人、令和元年度13回693人と減少傾向にある。コロナ禍の影響があるのかもしれないし、数が多ければいいというものでもないかもしれないが、大学の知名度・存在感の向上のためには意義深い活動と思われるので、やや残念である。
					2	村瀬	◎AIITシニアスタートアッププログラムへの取組み、特に修了生コミュニティを上げたことを高く評価したい。 ◇コロナ後の産業振興、(特に商工会議所を通じて)中小企業の支援に注力して頂きたい。場合によっては(行政等とも連携した上で)予算などの重点配分も検討して頂きたい。
					2	最上	◎マンスリーフォーラムを充実させ数値目標(年間600人程度)を上回る参加者(693名)があった。 ◎学校教育法施行規則(第164条第2項)の改定を経て、AIITシニアスタートアッププログラムを履修証明プログラムとして実施した。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	II 東京都立産業技術大学院大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目20 グローバル化	2-19	グローバル人材の育成、グローバル人材として獲得すべき能力指標の設定	S	◎ 優れた点・特色ある点 ・グローバル人材の育成を目指し、グローバルPBLについて公募を実施し、採択された教員は学生と共に、アジア諸国を訪ね、大学人のみならず政府機関や研究所の参加する会合で、政策提案を行なっている。	2	松山	◎グローバル人材の育成を目指し、グローバルPBLについて公募を実施し、採択された教員は学生と共に、アジア諸国を訪ね、大学人のみならず政府機関や研究所の参加する会合で、政策提案を行なっている。 ◎産技大の持つアジア諸国のネットワークを活用し、八丈島でAPENの総会・理事会を開催すると共に、ワークショップを開催し、島しょ振興をテーマに議論し、様々な知見を共有した。 ◎エジプト政府の要請により、PBL型教育に関する4週間のサマーセミナーを開き、エジプト政府から派遣された7人の学生を受入れ、指導した。	
	2-20	アジア諸国等の大学との連携	S		・産技大の持つアジア諸国のネットワークを活用し、八丈島でAPENの総会・理事会を開催すると共に、ワークショップを開催し、島しょ振興をテーマに議論し、様々な知見を共有した。	3	島田	
	<主な実績> [2-19] カリキュラム委員会のもと公募を行い、アジア諸国等の大学等とグローバルPBLを実施した。 [2-20] APEN総会や理事会、海外でのワークショップ、海外諸国からの視察受入を通じ、産技大の先進的教育手法をPRした。					1	杉谷	◇前年に引き続き、アジア諸国等の大学とグローバルPBLを広く展開するとともに、APENや国際交流を通じて産技大のPBL教育を積極的に発信している。新型コロナウイルス感染症の影響で中止等になった予定もあり、難しい局面もあるが、今後、オンラインの活用なども視野に入れてグローバルPBLに学生が参加しやすい環境が整備されることを期待したい。
						1	鈴木	◎グローバルPBLについて、カテゴリーA・Bを合計して、応募件数15件、採択数9件を得て、事業の拡大が図られている点が評価できる。新型コロナウイルス感染拡大によって中止となったものもあるが、次年度の実施可能性の意見交換や具体的な調整を進めるなど、新型コロナウイルスの影響を受けつつも、発展を目指した取り組みを継続している。 ◎アジア諸国等の大学との連携についても、APENを活用して、APEN島しょ振興計画の推進につなげたり、ウズベキスタンで、産技大をモデルとした実装化のための共催セミナーの開催により、具体的な協力の検討が開始する等、国際的な活動が発展している。
						2	高橋	◎アジアの産業発展を担う高度専門職人材育成のための教育プラットフォームAPENの第1回総会と島しょ新興ワークショップが八丈島で開催出来たことは、喜ばしい。様々な形の「グローバル化」の1つの大きな試みであり、この発展を期待する。
						2	村瀬	◎APEN総会を活用し、グローバルPBLを多岐にわたる国々に発信していることを評価したい。 ◇APEN総会などでアジア諸国との交流を行っているが、今後より広範な国々からの参加に結びつけていただきたい。 ▲現在、産技大で受入れている留学生(研究生)40人中39人が中国からとなっている。上記取組みを踏まえ、アジア諸国やアフリカなど多様な国々からの受入れを実現すべきである。
						2	最上	◎アジア諸国からの参加者を受けて、第1回 APEN 総会および島しょ振興ワークショップを開催した。 ◎海外諸国との交流事業や、視察の受け入れを通じて産技大の教育システムの先端性を発信できている。 ◇「各科目のグローバル寄与度についても再検討することとした」との記載について、グローバル寄与度とは具体的にどのようなものを想定しているのか、検討経過を示して欲しい。 ▲p173、〈成果・効果〉の文章の最後に脱落がある。(修正済)
	<参考意見> ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止等になった予定もあり、難しい局面もあるが、今後、オンラインの活用なども視野に入れてグローバルPBLに学生が参加しやすい環境が整備されることを期待したい。 ・APEN総会などでアジア諸国との交流を行っているが、今後より広範な国々からの参加に結びつけていただきたい。 ・現在、産技大で受入れている留学生(研究生)40人中39人が中国からとなっている。上記取組みを踏まえ、アジア諸国やアフリカなど多様な国々からの受入れを実現すべきである。							

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校(素案)の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目21 教育内容及び教育の成果等	3-00	新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、新たに専攻科プログラムも開始し、本科のプログラムを修了した専攻科生に対しても継続した高度な学びの場を提供している。また、本コースの履修生が、全国的に行なわれたコンテスト等で優秀な成績を修めている。 ・航空技術者育成プログラムについて、1期生7名を輩出し、全員の主要航空企業への就職が決定した。 ・令和3年度のJABEE受審に向けて、学習・教育到達目標の検討や改訂、各教育プログラムのカリキュラム設計方針を決定し、教育の質保証の特色を明確にした。 ・課題発見・解決型の実践的な教育により、創造的な技術者を育成するためにアクティブ・ラーニングの推進に向けた環境整備に取組み、外部講師を迎えての研修や実際の科目でアクティブ・ラーニング授業を展開している。 ・(大項目29に記載) ・グローバル・コミュニケーション・プログラムは30人、インターナショナル・エデュケーション・プログラムは40人の計70人が海外体験プログラムに参加しており、中期計画の目標人数を達成している。滞在日数を1日延長して、現地での活動前に現地の日系企業で日本人社員による研修を行う等、プログラムの効果を高める取組が行われている。	1	松山	◎新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成のため、教育改革に取組み、品川キャンパスでは新たな2コースの設置、荒川キャンパスではコース横断型の理工連携教育の実践に向けて準備を進めている。 ◎情報セキュリティ技術者育成プログラムは3名の第2期修了生を送った後、各学年10数名の学生が引き続き教育を受けている。また、本コースの履修生は全国的に行なわれたコンテスト等で優秀な成績を修めている。今後、ますます重要視される分野であり、優秀な人材の育成を期待する。 ◎航空技術者育成プログラムは、今後、需要が増加する航空技術者(航空機製造技術、保全技術としての航空機整備技術)の輩出を目指しており、令和元年度、初めての卒業生7名全員の主要航空企業への就職が決まった。更なる発展を期待したい。 ◎令和3年度のJABEE受審に向けて、学習・教育到達目標の検討や改訂、各教育プログラムのカリキュラム設計方針を決定し、教育の質保証の特色を明確にした。 ◎課題発見・解決型の実践的な教育により、創造的な技術者を育成するためにアクティブ・ラーニングの推進に向けた環境整備に取組み、外部講師を迎えての研修や実際の科目でアクティブ・ラーニング授業を展開している。
	3-01	情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、航空技術者育成プログラムの実施	S		2	島田	◎3-01 情報セキュリティ技術者育成プログラムおよび航空技術者育成プログラムともに着実に修了生を輩出し、成果を上げている。
	3-02	(年度計画なし)	—		1	杉谷	◎試行段階も含むが、前年よりアクティブ・ラーニング科目が大幅に増設され、授業科目の充実が努力されている。 ◇航空技術者育成の1期修了生が全員無事修了し、主要航空企業への就職が決定したことは評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響によって、今後、航空業界への就職は厳しくなるかもしれないが、引き続きインターンシップや就職に向けて学生の支援に取り組んでいただきたい。
	3-03	JABEE受審へ向けた取組	A		1	鈴木	◎情報セキュリティ技術者育成プログラムについて、新たに専攻科プログラムも開始し、本科のプログラムを修了した専攻科生に対しても継続した高度な学びの場を提供している点が評価できる。教員体制も、現役のセキュリティエンジニア7名を招へいし、実践的な技術修得を目指した学びの場が提供されている。 ◎本科4年生13名、専攻科1年生3名の計16名がIT・情報セキュリティ企業へのインターンシップに参加したり、専攻科1年生1名がマレーシア工科大学のインターンシップに参加するなど、キャリア形成に関わる機会提供の充実も図っている。 ◎「KOSENセキュリティコンテスト2019」で優勝、「SECOON CTF(国内)」の決勝大会で5位(加えて、文部科学大臣賞(チーム賞)の受賞)など、高い成績をおさめている点も評価できる。 ◎プログラムの履修生が、中学生向けや社会人向けの勉強会について、企画から教材開発、システム構築まで行う取組も、企画力や事業の実行力をつけることにもつながり、充実した取組となっている。履修生への効果だけでなく、入試応募者の確保にもつながっており、中学生の参加者から推薦、一般を合わせて26名が合格している。 ◎航空技術者育成プログラムについて、インターンシップに参加した航空関連企業・製造関連の企業に就職が決定しており、キャリア形成支援において、インターンシップが重要な役割を果たしている。 ◎グローバル・コミュニケーション・プログラムは30人、インターナショナル・エデュケーション・プログラムは40人の計70人が海外体験プログラムに参加しており、中期計画の目標人数を達成している。滞在日数を1日延長して、現地での活動前に現地の日系企業で日本人社員による研修を行う等、プログラムの効果を高める取組が行われている点も評価できる
	3-04	アクティブ・ラーニング推進に向けた環境整備、課題発見・解決型実践的教育の実施・拡充	A		1	高橋	◎今回の中期計画の目玉である情報セキュリティ技術者育成プログラム、航空技術者育成プログラムについて、順調に実施されてきている。◎グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)及びインターナショナル・エデュケーション・プログラム(IEP)プログラムが、引き続き参加者も多く順調に実施されている様子で好ましい。
	3-05	国際的に活躍できる技術者の育成	S		2+	村瀬	◎新たな職業教育としての情報セキュリティ・航空技術者育成プログラムは傑出した取組であり、各種コンテストの成績や就職状況等で成果が裏付けられている。また、海外体験プログラムでの新たな試み(現地日本企業の訪問等)にも注目したい。併せて、手間のかかる取組みであるがJABEE受審への対応も高く評価すべきである。 ◇従来の取組みは継続した上で、「英語が本当に苦手、英語に恐怖心がある」学生にこそ苦手意識を克服する、或いは将来突然の海外勤務でも狼狽しないような「教育」を是非検討して頂きたい(仕事で海外へ派遣された経験者で苦手意識があった人から体験談を聞くこと、現地での日本人社員と現地スタッフの日常を見聞すること等は将来役に立つのではないか)。
	3-06	専攻科一部専門科目の英語教育導入に向けた取組	B		2	最上	◎情報セキュリティ技術者育成プログラムを積極的に運営し、修了生を輩出するとともに、学外活動を活発に行っている。 ◎航空技術者育成プログラムを積極的に運営し、関連業界へ修了生が採用されている。 ◎アクティブ・ラーニングの推進や、課題発見・解決型実践的教育の実施において SA(スチューデント・アシスタント)が有効に機能している。
<主な実績> [3-01] ・情報セキュリティ技術者専攻科課程のプログラムを開始した。3名の2期修了生を輩出した。 ・航空技術者新航空実習館「汐風」で実習授業を開始した。7名の1期修了生を輩出し、全員の主要航空企業への就職が決定した。 [3-03] JABEE受審へ向けて4つの教育プログラムの自己点検書案の骨格が完成した。 [3-04] 品川キャンパスで33科目(昨年比24科目増)、荒川キャンパスで34科目(昨年比25科目増)アクティブ・ラーニングを導入した。 [3-05] 平成29(2017)年度から続く海外体験プログラム(GCP及びIEP)に【70人】が参加した。							

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目22 教育の実施体制等 【教育システムの継続的な改善、他の教育機関等との連携】	3-07	運営協力者会議等を活用した教育研究の質の向上	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・都立工業高校からの編入学生受入れのための接続プログラムを着実に実施し、編入生を3名受入れた。	3	松山	◎外部の有識者からなる運営協力者会議から外部評価を受け、評価結果を活かして、産業界のニーズに応える教育改善を図っている。 ◎都立工業高校との接続プログラム実施のため都立工業高校から編入生を3名受入れた。
	3-08	都立工業高校との接続プログラムの実施	B		3	島田	
	3-09	情報セキュリティに関するリカレント教育の実施に向けた取組、産技大・都立大大と連携したGCP実施、2大学1高専の連携	A		3	杉谷	
	<主な実績> [3-08] 令和2(2020)年度編入学生として3名の受入れを決定した。 [3-09] 大学・高専連携事業として第7回グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)を実施し、学生の課題解決力やコミュニケーション能力の向上を図った。				3	鈴木	
					<参考意見>	3	高橋
				3	村瀬		
				3	最上	◇編入説明会参加者数には父兄を含める必要はないのでは？ ◇編入学者と、それらの修了とを対応させるデータの提示が望ましい。 ▲情報セキュリティに関するリカレント教育の実施(3-09)に向けた取組に対する自己評価がよくわからない。3-10掲載とあるが、どの部分なのでしょう。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (2) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目23 教育の実施体制等 【教育の質の評価・改善】	3-10	(年度計画なし)	—	<評定説明> ◎ 優れた点・特色ある点 ・大学改革支援・学位授与機構の認証評価を受け、情報セキュリティ教育、ものづくり教育、国際対応を育む教育、高い就職率・進学率を評価された。 ・教員研修について、初任者研修、昇任者研修、管理職研修とも100%の参加率を得ている。個別課題研修も82%と中期計画目標の80%以上を達成している。	3	松山	◎大学改革支援・学位授与機構の認証評価を受け、情報セキュリティ教育、ものづくり教育、国際対応を育む教育、高い就職率・進学率を評価された。 ◎新任研修、昇任研修、管理職研修などの研修に100%参加し、研修を受けることの意義を感じたと報告されている。また、個別課題研修にも82%が参加し、教員研修が十分機能していると判断される。 ◇認証評価において、教育支援者である技術職員に対する技能の資質向上を図るための取組は十分とは言えないと指摘された。職域ごとの研修の検討を開始しているが、早急に取り組んでいただきたい。	
	3-11	機関別認証評価の受審	A		3	島田		
	3-12	更なる教育の質の向上へ向けた教員研修の取組	B		3	杉谷		
	<主な実績> [3-11] 機関別認証評価を受審し、評価基準を満たしているという評価結果を得た。 [3-12] 新任研修、昇任者研修、管理職研修は参加率【100%】、個別課題研修は参加率【82%】であった。				3	鈴木	◎教員研修について、初任者研修、昇任者研修、管理職研修とも100%の参加率を得ている。個別課題研修も82%と中期計画目標の80%以上を達成している。	
					3	高橋		
					2	村瀬	◎研修(新任・昇任・管理職)受講率が全て100%であることは特筆に値する。	
			3	最上	◎機関別認証評価を受審し、高等専門学校評価基準を満たしているとの評価結果を受けた。			
					<参考意見> ・認証評価において、教育支援者である技術職員に対する技能の資質向上を図るための取組は十分とは言えないと指摘された。職域ごとの研修の検討を開始しているが、早急に取り組んでいただきたい。			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (3) 学生への支援に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目24 学生への支援	3-13	多様な課外活動の支援、学生相談体制の強化、経済的支援の拡充	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・課外活動経費を一部助成する未来工房プロジェクトは申請件数が増加しており、提案公募方式による課外活動支援も大会等で学生が活躍するなど、課外活動が活発化している。	2	松山	◎学生の課外活動において素晴らしい成果を上げており、支援の成果である。 ◎カウンセラーによる相談日として週3日設け、受け入れ体制を維持している。また、学生相談体制の強化のため、相談員や看護師、などと連携して対応している。 ◎学生の就職率・進学率は非常に高く、キャリア支援体制が十分に機能している。女子学生の進路指導を今後、更に充実させるよう期待する。 ◇学生相談件数(図表3-13-1)は年間457件であり、必ずしも多いとは言えない。相談しやすい環境にあるかどうか、検討していただければ有り難い。 ◇国民の経済格差が大きくなり、経済支援を必要とする学生に対して、きめ細かな対応を期待する。
	3-14	各種キャリア支援事業の推進	B		2	島田	◎3-13 障がいや有する学生の支援チームを設置し、修学等に対する支援が、学校全体での連携体制のもとに実施されたことは特筆すべきことである。
	<主な実績> [3-13] ・課外活動に対する支援により、大会等で学生が優秀な成績を収めた。 ・障害のある学生に対する特別支援チームを設置した。				2	杉谷	◎課外活動経費を一部助成する未来工房プロジェクトは申請件数が増加しており、提案公募方式による課外活動支援も大会等で学生が活躍するなど、課外活動が活発化している。 ◇学校全体での連携体制のもとに、障がいや有する学生への修学支援を進めていくことは重要であるが、学生の個人情報の取り扱いや本人の意思を尊重するなどにも十分ご留意いただきたい。
					2	鈴木	◎未来工房プロジェクト、未来工房ジュニアなど、継続して多様な課外活動を支援し、申請件数の増加、申請内容の高度化など、活動が活発に行われている点が評価できる。 ◇学生相談体制、経済的支援について、障がいや有する学生の支援チームの設置、授業料や入学金の減免、国際化推進事業の費用負担等、様々な支援が行われている点が評価できる。新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う活動自粛が学生に与えている影響を踏まえて、精神面、経済面の充実を図っていくことが期待される。
					3	高橋	
					2	村瀬	◎学生への支援は高専の特長も踏まえ、きめ細かく行われていると評価。特に障がいのある学生を「支援チーム」で支えるという発想は素晴らしい。
					2	最上	◎課外活動経費の一部助成等により、学生の多様な課外活動が活発に行われている。 ◇障がいや有する学生の支援チームの構成を示して欲しい。
					<参考意見> ・学生相談件数(図表3-13-1)は年間457件であり、必ずしも多いとは言えない。相談しやすい環境にあるかどうか、検討していただければ有り難い。 ・学校全体での連携体制のもとに、障がいや有する学生への修学支援を進めていくことは重要であるが、学生の個人情報の取り扱いや本人の意思を尊重するなどにも十分ご留意いただきたい。		

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 1 教育に関する目標を達成するための措置 (4) 入学者選抜に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目25 入学者選抜	3-15	特別推薦入試制度の拡充に向けた取組	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・女子学生確保に向けた様々な取組が推進されており、女性在学生自身による学生生活紹介や相談会など、学生主体の取組が行われている。一般入試において、女子の志願者数、入学者数とも拡大し、開校以来、最高の人数を確保できた。 ・ターゲットに応じた戦略的な広報活動として、ホームページをリニューアルするとともに、志願者がアクセスしやすいSNSで積極的な情報発信を行っている。	2	松山	◎志願者は、推薦入試、一般入試共に例年より増加しており、積極的な広報活動が有効に機能している。女子学生も例年通りの入学があった。 ◎ターゲットを定めた戦略的な広報活動で、ホームページや志願者がアクセスしやすいSNSに多くの情報を提供している。
	3-16	女子学生確保に向けた取組	A		3	島田	
	3-17	意欲ある志願者確保に向けた取組	A		2	杉谷	◇全体として志願倍率が前年に比べて大きく伸びている。女子学生の志願者数も増加しているが、ここ3年、入学者数にはあまり変動がない。入学や在学生の定着という観点から工夫し、女子学生の確保に向けた取組を強化していただきたい。
	<主な実績> [3-15] 品川区と【令和4(2022)年度】からの特別推薦入試制度の実施を正式に決定した。荒川区とは正式決定に向けた事務手続きを継続中である。 [3-16] 積極的な広報により、女子学生の志願者数が平成18(2006)年度の開校から過去最高の82人となった。 [3-17] ・第三期中期計画後半(令和2(2020)年度から令和4(2022)年度まで)の「高専広報戦略」を策定した。 ・HPをリニューアルし、受験生に有益な情報を取得しやすいデザインに刷新した。				2	鈴木	◎品川区と特別推薦入試制度に基づく協定を提携し、ものづくりに意欲的な学生の確保に向けて、令和4年度から募集人員を2人へ増大することが正式に決定した点が評価できる。新型コロナウイルス感染拡大により延期となっている荒川区においても、協定締結の調整が進むことが期待される。 ◎女子学生確保に向けた様々な取組が推進されており、女性在学生自身による学生生活紹介や相談会など、学生主体の取組が行われている点などが評価できる。一般入試において、女子の志願者数、入学者数とも拡大し、開校以来、最高の人数を確保できたことも、こうした取組による効果と思われる。
					2	高橋	◇女子学生確保に向けた各種広報活動が実り、最高の志願者数、入学者数になったことは、素晴らしい。全体の志願者数も順調である。女子学生が増えることによる学校の活性化、人気の上昇効果に期待して、更なる取組みの充実が望まれる。
					2+	村瀬	◎過去最高の出願者数となったこと、特に女子志願者が増えたことについて広報活動などの粘り強い活動に敬意を表したい。広報活動のリソースを少し増やしてはどうか。
					2	最上	◎女子中学生や保護者に積極的な情報発信を行うことで、女子の志願者と入学者が増加した。 ◎マルチデバイス対応等、ホームページのリニューアルやSNSの積極的利用などを通して情報発信を行うことで、志願者と入学者が増加した。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 2 研究に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目26 研究	3-18	外部資金獲得に資する支援等、特別研究期間取得教員増加へ向けた取組	B	2	<評定説明> ◇更なる充実が期待される点 ・特別研究期間制度を利用する教員が、平成30年度及び令和元年度ともに1名であったことについて、中期計画の目標である年間4名を達成できるよう、対策を講じられたい。	2	松山	◎科学研究費補助金の新規採択率は下がったが、新規と継続の件数を加えると申請者(45名)の45%に当たる20名が補助金を受けている。 ◎特別研究期間制度を運用して、1名を海外の大学に派遣している。 ◎「大学・高専連携事業基金」事業で採択された研究1件について、高専専攻科生がベトナムで開かれた国際会議で「Best Student Award」を受賞した。
	3-19	東京2020 大会に資する研究の推進に向けた取組	A			3	島田	
	3-20	首都大・産技大と連携した共同研究の充実に向けた取組	B			3	杉谷	
	<主な実績> [3-18] 特別研究期間制度を運用し、1名を海外の大学に派遣した。 [3-19] 東京2020大会支援に資するプロジェクト型教育研究として、1件実施した。 [3-20] 「大学・高専連携事業基金」事業の「第三期共同研究～専攻科 Co Labo.」の課題を検討し、実態に即した内容に改訂した。					<参考意見>		3
					3	高橋		
					3	村瀬	◇特別研究期間制度の利用者が昨年度も1名であったのは残念。なぜ目標未達となるのか、原因を探った上で対策を講じていただきたい。併せてテーマ発掘では法人も活用し、2大学との研究面での連携をさらに拡大していただきたい。	
					3	最上	◎外部資金獲得増加を目指し、東京都立大学の「科研費講習会」への参加や、総合研究推進機構との提携による高専のニーズに応じた新たな支援を試みた。 ◎「大学・高専連携事業基金」事業の実施要領を改訂し、「第三期共同研究」専攻科 Co Labo.」の応募件数が増加した(2019年度1件から2020年7件)。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (1) 都政との連携に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目27 都政との連携	3-21	東京2020 大会を見据えた取組の実施	A	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・荒川区教育委員会、地域の中学校との連携協働により、車いす利用者のための「環境快適マップ」を完成させた。 ・中学生向けに情報セキュリティ等の勉強会を開設し、定員を超える応募があった。また、中学生の頃から情報セキュリティ等を学ぶ機会を提供することにより、情報セキュリティに関する関心を高め、将来のキャリア形成を支援している。 ・東京都や外郭団体職員を対象に情報セキュリティに関する意識や知識の向上を図る研修を実施し、定員を上回る参加があった。	2	松山	◎東京2020大会に資する研究として、荒川区の中学と連携し、車いす利用者のための情報マップをまとめた。 ◎小中学生（若年層）向けに情報セキュリティ教育講座を開設したり、出前授業や理科・技術教育サポーターを派遣したりして、地域の教育に貢献している。 ◎東京都や外郭団体職員を対象に情報セキュリティに関する意識や知識の向上を図る研修を実施している。
	3-22	東京の産業を支えるものづくり人材の育成に貢献する小中学校向けの情報セキュリティ研修の実施、出前授業、理科・技術サポーターの実施、情報セキュリティに関する都職員向け講座の実施に向けた取組	A		2	島田	
	<主な実績> [3-21] 荒川区や地元の中学校と協働して、障がい者（車いす利用者）むけの地図情報システムを開発した。 [3-22] 都職員向けリカレント教育として試行した情報セキュリティ研修では本校が開発した疑似マルウェア感染体験システムを活用した。				2	杉谷	◎荒川区教育委員会、地域の中学校との連携協働により、車いす利用者のための「環境快適マップ」を開発した。また、そうした取組を通じて中学生の障がい者理解にもつながったことは評価できる。
					2	鈴木	◎「サイバーセキュリティTOKYO for Junior」について、応募者、後援企業とも増加しており、事業が発展している点が評価できる。「ICT基礎Lab. for junior」も定員を超える応募に対応している。中学生から情報セキュリティを学ぶ機会を提供することにより、情報セキュリティに関する関心を高め、キャリア形成を支援している点が評価できる。 ◎行政においても情報セキュリティへの対応の充実が求められる中、都職員に対する情報セキュリティに関する研修も、定員を上回る人数に対応している点が評価できる。
					3	高橋	◇中学生を対象として、楽しみながら情報セキュリティ対策を学んでもらう「サイバーセキュリティTOKYO for Junior」の企画、あるいは、中学校を対象とした出前授業は、東京の産業を支えるものづくり人材の育成に有効であり、より拡大充実することが期待される。
					2	村瀬	◎都職員向けの情報セキュリティ教育活動を高く評価したい。現場第一線からの強いニーズが感じられる。中学生向けの情報セキュリティ教育も同様。e-learningとして完成版となったら、商品化(東京都へは無償で提供)しても良いのではないか。
					2	最上	◎情報セキュリティに関し、小中学校生や都職員に向けての研修を積極的に実施し、定員を上回る受講応募があった。 ◎ものづくり人材の育成に関し、特別区等との提携による、理科・技術教育サポーターやオープンカレッジ共催講座を開催した。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 3 社会との連携や社会貢献等に関する目標を達成するための措置 (2) 社会貢献等に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価			
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)	
大項目28 社会貢献等	3-23	共同研究等の機会の拡充に向けた取組	B	◎ 優れた点・特色ある点 ・地域のものづくり技術者のスキルアップのため、若手技術者支援の講座を開設したところ、定員を超える応募があり、講座修了後のアンケート結果は満足度、充実度、活用度共に、概ね好評であった。 ・疑似マルウェア感染体験システムを開発し、品川区、警視庁との連携で、中小企業向け「実体験型サイバーセキュリティセミナー」を実施し、意識向上の啓蒙活動に貢献した。	3	松山	◎地域のものづくり技術者のスキルアップのため、若手技術者支援の講座を開設したところ、定員を超える応募があり、講座修了後のアンケート結果は満足度、充実度、活用度共に、概ね好評であった。 ◎疑似マルウェア感染体験システムを開発し、品川区、警視庁との連携で、中小企業向け「実体験型サイバーセキュリティセミナー」を実施し、意識向上の啓蒙活動に貢献した。		
	3-24	地域のものづくり技術者のスキルアップに資する取組、中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座の充実化	B		◎高専の持つ情報セキュリティ技術が都職員や自治体、企業との連携により、より地域に還元できるような体制が構築されてきている。				
	<主な実績> [3-23] 共同研究につなげるため、展示会や交流会等で教員のシーズ発信を積極的に行った。また、技術相談を14件受けた。 [3-24] 疑似マルウェア感染体験システムを開発し、品川区、警視庁等との連携による中小企業向け「実体験型サイバーセキュリティセミナー」を実施した。			<参考意見> ・従来から年間十数件の「技術相談」を受け、技術フェア等で情報発信を行っている。目立たない取組みであるが、地域・社会への着実な貢献であると評価したい。技術相談については地元中心となっているが、WEB活用等により広範な地域からの相談を受けることができるよう、検討してはどうか。 ・中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座については、既定の申込人数に至らず、開講できなかった講座があったことから、引き続き、中小企業の学びのニーズ把握や広報活動の工夫等により、地域貢献に資する講座の充実が期待される。 ・独自に構築したサイバー演習システムを用いて、東京都幹部職員を対象とした情報セキュリティ研修が行われた。定員の倍以上が受講し、関心が高いことがうかがえる。中小企業向けのセミナーなども行われ、今後さらに拡大していくことが期待される。こうしたシステムが他機関で生じた情報セキュリティ事故を防止するうえでも有用であるようならば、さらに機関を超えた研修などに活用されたい。			3	杉谷	◇独自に構築したサイバー演習システムを用いて、東京都幹部職員を対象とした情報セキュリティ研修が行われた。定員の倍以上が受講し、関心が高いことがうかがえる。中小企業向けのセミナーなども行われ、今後さらに拡大していくことが期待される。こうしたシステムが他機関で生じた情報セキュリティ事故を防止するうえでも有用であるようならば、さらに機関を超えた研修などに活用されたい。
				3	鈴木	◇地域の若手技術者に対しても大田区、品川区と連携して講座を開講し、定員を上回る参加者を確保するとともに、受講者からも好評を得ている点が評価できる。一方、中小企業のニーズに対応したオープンカレッジ講座については、既定の申込人数に至らず、開講できなかった講座があったことから、引き続き、中小企業の学びのニーズ把握や広報活動の工夫等により、地域貢献に資する講座の充実が期待される			
				3	高橋				
				3	村瀬	◎従来から年間十数件の「技術相談」を受け、技術フェア等で情報発信を行っている。目立たない取組みであるが、地域・社会への着実な貢献であると評価したい。 ◇技術相談については地元中心となっているが、WEB活用等により広範な地域からの相談を受けることができるよう、検討してはどうか。			
				3	最上	◎大田区及び品川区と連携して、「若手技術者支援のための講座」を6講座実施し、定員を上回る応募があり、概ね好評であった。 ◎実機訓練のために開発した疑似マルウェア感染体験システムを用いて、地元企業に向けた「実体験型サイバーセキュリティセミナー」を実施した。			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅲ 東京都立産業技術高等専門学校の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するために取るべき措置 4 グローバル化に関する目標を達成するための措置
-------------	---

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目29 グローバル化	3-25	専攻科一部専門科目の英語教育導入に向けた取組	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・グローバル・コミュニケーション・プログラムは30人、インターナショナル・エデュケーション・プログラムは40人の計70人が海外体験プログラムに参加しており、中期計画の目標人数を達成している。滞在日数を1日延長して、現地での活動前に現地の日系企業で日本人社員による研修を行う等、プログラムの効果を高める取組が行われている。	2	松山	◎海外体験プログラムで、3大学が合同で行なうGCP (Global Communication Program) に30人 (高専は高学年)、高専が独自で行なうIEP (International Educational Program) に40人 (高専低学年) が参加した。海外企業訪問、職場体験、企業調査、英語学習などを通してグローバル人としてのモチベーションが高められている。 ◎GCPへのステップとしてIEPが開始されたが、IEP参加者がGCPへの参加を希望する者が多くなっている。両プログラムは順調に進められている。	
	3-26	JABEE受審へ向けた取組	A		2	島田	◎海外プログラムの検証と総括により、より学生が参加しやすく、満足度の高いプログラムとなっている。	
	3-27	国際的に活躍できる技術者の育成	S		2	杉谷	◇例年に引き続き、2つの海外体験プログラムに高専の学生を主体にして70名が参加しており、プログラムへの満足度も高い。特に、令和元年度にはGCPにおいて現地日系企業での研修機会が設けられ、学生が海外勤務を身近に感じ進路を考える契機になったことは評価される。	
	<主な実績> [3-26] JABEE受審へ向けて4つの教育プログラムの自己点検書案の骨格が完成した。 [3-27] 平成29 (2017) 年度から続く海外体験プログラム (GCP及びIEP) に【70人】が参加した。				2	鈴木	◎グローバル・コミュニケーション・プログラムは30人、インターナショナル・エデュケーション・プログラムは40人の計70人が海外体験プログラムに参加しており、中期計画の目標人数を達成している。滞在日数を1日延長して、現地での活動前に現地の日系企業で日本人社員による研修を行う等、プログラムの効果を高める取組が行われている点も評価できる。(大項目21再掲)	
				<参考意見> ・中期計画【3-05】で、海外体験プログラムの参加者は【毎年度70人】とする、とのことである。平成29年度、平成30年度、令和元年度共に、70人の参加、ということである。もし、要件、能力を充たす応募者が、この人数をかなり上回っているが、予算上その他の理由で、厳しい選考になっているということであれば、この70名の枠自体を増やすことを検討しても良いのではないか。目玉のプログラムでもあり、学生の意欲を育てることを重視したい。 ・従来の取組は継続した上で、「英語が本当に苦手、英語に恐怖心がある」学生にこそ苦手意識を克服する、或いは将来突然の海外勤務でも狼狽しないような「教育」を是非検討して頂きたい(仕事で海外へ派遣された経験者で苦手意識があった人から体験談を聞くこと、現地での日本人社員と現地スタッフの日常を見聞すること等は将来役に立つのではないか)。	3	高橋	▲この項目自体は評価1とするが、大項目21の方でその評価を行った。ところで、中期計画【3-05】で、海外体験プログラムの参加者は【毎年度70人】とする、とのことである。報告書(P175・176)によれば、29年度、30年度、令和元年度共に、70人の参加、ということである。もし、要件、能力を充たす応募者が、この人数をかなり上回っているが、予算上その他の理由で、厳しい選考になっているということであれば、この70名の枠自体を増やすことを検討しても良いのではないか。目玉のプログラムでもあり、学生の意欲を育てることを重視したい。	
					2	村瀬	◎海外体験プログラムで現地日本企業を訪問するといった改善を行ったことを評価したい。またJABEE受審も高専出身者が国際的に認知されるために重要な役割を果たすことから取組みが着実に進展していることを高く評価する。 ◇英語に対する「苦手意識」がある高専生の不安を払拭する取組を進めて頂きたい。	
					3	最上	◎グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)及び、インターナショナル・エデュケーション・プログラム(IEP)を実施し、2つのプログラムに計70人が参加した。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 1 組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	
-------------	--	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価			
	小項目	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)	
大項目30 組織運営の改善	4-01	プレゼンス及び認知度の更なる向上に向けた取組、トップマネジメントの強化、各学校や法人の適正かつ効率的な運営、法人コンプライアンスの確保・向上のための体制整備	B	<p><評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・公益通報など法的な対応が必要となる案件の窓口を一本化し、法人コンプライアンスへの対応体制の強化を図った。</p> <p>・(教学IRに関しては大項目2、都連携については大項目8で記載、プレゼンスに関しては大項目34で記載)</p> <p>▲改善すべき点 ・大学院入試問題漏えい等は個人に帰す特殊な事案であるかもしれないが、「事故」ではなく「事件」である。詳細な原因分析と全学的な再発防止策を策定することは当然であり、これをもって法人コンプライアンスの確保・向上に向けた組織的な取組体制が整備されたこと「成果」として位置づけるのではなく、再発防止策に取り組み、公平・公正な大学院入試を徹底すること。</p> <p><参考意見> ・職員の海外研修プログラムには、この3年間、毎年4名が派遣されていて好ましいことである。仮に、能力や意欲の点から考えると適任者の数はもっと多いが、予算、業務遂行上の観点から、4名を上限としているのであれば、この4名の枠を増やしても良いのではないかと考える。職員への有効な研修制度の充実も、難しい課題であるので、その点からは、比較的、取り組みやすく成果も出やすい研修と言えるのではないかと考えるためである。</p>	2	松山	◎大学・法人の名称変更を契機に、大学・高専のプレゼンスおよび認知度の向上に向けた取組を進めている。 ◎予算編成において、理事長の意向を反映し、各部署のヒアリングや調整を実施して、年度計画および予算編成、組織・人事計画を作成している。 ◎監事監査において各部署の支援により職員へのヒアリングや学長・校長らとの意見交換が行なわれ、監事が各部署の課題を把握すると共に、業務改善に向けた監査が実現できた。 ◎コンプライアンスの確保のため、研究不正防止とハラスメント対応の公益通報窓口を一本化して、情報の集約や対応力の強化に繋がった。 ◎都立大学における教学IRシステムは有効に機能し、ビジョンに基づきデータを活用した教学マネジメントが進められている。 ◎都立大において、学長裁量枠で5名の教員を採用した。 ◎TOEICスコアが600点以上の職員が22%に向上した。さらに、職員の海外研修プログラムで年間4名を派遣しており、緩やかではあるが、職員のグローバル化が進んでいる。スピードアップを期待する。 ◇大学院入試問題漏洩が発生し、都立大のイメージを悪くした。検証委員会での検証結果を基に、コンプライアンスへの意識の徹底、大学院入試の改善、ガバナンス機能の強化により再発防止策を策定している。今後、更に公平・公正な大学院入試を徹底していただきたい。	
	4-01-2	都連携事業を推進する組織の強化	A					
	4-02	計画策定、予算編成作業を通じた各学校の支援、都立大における、ビジョンやデータに基づく全学的な教学マネジメントの推進、産技大における、PDCAサイクルによるマネジメント機能の強化、高専における、学校運営へのデータ活用推進	B				3	島田
	4-03	教員人事制度の適切な運用・改善	B				3	杉谷
	4-04	大学の将来を担う若手研究者育成、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組	B					
	4-05	学長の裁量による採用選考手続き、人事委員会審議の在り方検討、教員人事計画の策定	B				3	鈴木
	4-06	研修内容、実施手法の充実、職員の属性や需要に合致した研修の実施及びOJT教材の利活用、職員のキャリア形成意識の醸成、職員が意欲的に学ぶ意識の醸成	B					
	4-07	専門職人事制度の検証	B					
	4-08	職員の語学力の向上に向けた取組	B				2	高橋
	<p><主な実績> [4-01] ・大学・法人の名称変更を契機とし、2大学1高専のビジョン・将来構想と連動した、各校のプレゼンス及び認知度の更なる向上に向け、第三期中期計画及び令和元(2019)年度年度計画を変更した。 ・大学院入試問題漏えい等の事故を受け、コンプライアンスへの意識の徹底、大学院入試の仕組みの改善、ガバナンス機能の強化を行う再発防止策を策定した。 [4-01-2] 都連携及び研究力強化に対応した機動的・機動的な組織体制を確立し、東京都下水道局と包括連携協定を締結した。 [4-04] 全学の女性教員比率が【20.6%】になった。 [4-05] 学長裁量による教員採用枠を4部局5枠確保した。 [4-08] TOEIC600点以上の職員比率【22%】まで進捗した(平成30(2018)年度比+0.9ポイント増)。</p>						2+	村瀬
			3	最上	◎大学・法人の名称変更を行い、それに伴う各校の取組について議論・検討し、第三期中期計画及び令和元(2019)年度年度計画を変更した。 ◎東京都下水道局と法人において、共同研究等を推進するため、包括連携協定を締結した。			

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 2 教育研究組織の見直し等に関する目標を達成するための措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目31 教育研究組織の見直し等	4-09	(都立大) 学部・学科の再編成及び全学組織体制の強化、学長の裁量による採用選考手続き、指名人事による採用手続き	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・2大学1高専において、それぞれの状況に応じた教育研究組織の見直しが行われている。 ・2大学1高専の新たな連携のあり方を検討するため、各校職員によるWGを立ち上げて検討を開始し、取組(案)を取りまとめた。 ◇更なる充実が期待される点 ・2大学1高専の新たな連携の取組について、実施へ向けたステップが進むことを期待する。	3	松山	◎令和元年度に都立大外国語教育室・教職課程センターを設置すると共に、生涯学習推進センター設置の準備を進めている。 ◎3大学・高専の学生の課題解決力やコミュニケーション能力の向上を目的にグローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)を法人が支援し、実施している。合計40名の学生が9日間の日程でシンガポール共和国に派遣された。帰国後の最終報告会ではプログラムの目的に合致する成果が得たと見られた。
	4-10	(産技大) 教育プログラムの開発・設計、研究科及び専攻の教育体制の在り方の検討、実施	S		3	島田	
	4-11	(高専) 情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施、航空技術者育成プログラムの実施、新しいものづくりを牽引する実践的技術者の育成	A		3	杉谷	
	4-12	大都市東京の課題解決に向けた提言、人材育成、2大学1高専の連携、グローバル・コミュニケーション・プログラム(GCP)の実施	B		2	鈴木	◎生涯学習推進センターの設置準備が開始されたことが評価できる。プレミアムカレッジ、オープンユニバーシティ、それぞれの特色や課題などを分析し、都立大における今後の生涯学習の取組の充実が期待される。 ◎産業技術大学院大学の研究科の再編、産業技術高等専門学校における情報セキュリティ技術者育成プログラムの実施等、それぞれ教育プログラムの充実を図った点が評価できる。 ◇2大学1高専のあり方を検討するために、各校事務職員によるWGを立ち上げて検討を開始し、新たな連携のあり方(案)を取りまとめた点が評価できる。今後、実際に取組を推進するための計画等、実施へ向けたステップが進むことが期待される。
	<主な実績> [4-09] ・平成31(2019)年4月に、外国語教育室及び教職課程センターを設置した。また、令和2(2020)年4月に設置する生涯学習推進センターの設置準備を行った。 ・学長裁量による教員採用枠を4部局5枠確保した。 ・高い専門性と豊富な実務経験を有する人材を確保するため、指名人事による採用を4件行った。 [4-10] 令和2(2020)年度の研究科再編による起業・創業・事業承継を視野に入れた学位プログラム実施に向け、時間割やシラバスを整備した。 [4-11] ・〈情報セキュリティ技術者〉専攻科課程のプログラムを開始した。3名の2期修了生を輩出した。 ・〈航空技術者〉新航空実習館「汐風」で実習授業を開始した。7名の1期修了生を輩出し、全員の主要航空企業への就職が決定した。 出し、全員の主要航空企業への就職が決定した。 [4-12] 「教育・研究」に、新たに「学生交流・社会貢献」、「業務効率」を加えた3分野の今後の中長期的な目標と取組案を示した新たな連携の在り方(案)を取りまとめた。						
			<参考意見>				
				3	高橋	◇2大学1高専の新たな連携の在り方を探るために、各校事務職員によるWGを立ち上げ、その結果、大学高専連絡会議において、従来の「教育・研究」に加え、「学生交流・社会貢献」「業務効率」の3分野において、今後の中長期目標と取組み案をまとめたということである。様々な観点から、教育・研究の資源を見直し生かすために、とても良い試みであると評価する。	
				2	村瀬	◎産技大の研究科再編への対応など研究組織見直しへの対応は滞りなく遂行しており法人としての貢献度は大きいと評価。 ◇2大学1高専の連携事業としてのGCPへの支援は評価するが、派遣先であるシンガポールから2大学1高専への留学生が1人もいないのが残念。今後に期待したい。	
				2	最上	◎2大学1高専において、それぞれの状況に応じた教育研究組織の見直しが行われている。 ◇新時代の観光のあり方の探究、ベンチャーマインドとアイデアを備えた人材の育成の具体的方法を記載して欲しい。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	IV 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するために取るべき措置 3 事務の効率化・合理化等に関する目標を達成するために取るべき措置
-------------	--

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目32 事務の効率化・合理化等	4-13	機能的・機動的な組織体制の確立、多様な働き方の実現や法人内共通業務の効率化へ向けた検討	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・多様な働き方の実現に向けて、各部署の職員による参加型ワークショップ等を開催し、各職場の業務をお互いに理解した上で取組を推進できるよう工夫している。 ・新財務会計システム、施設予約システムの構築により、事務の効率化を図った。 ◇更なる充実が期待される点 ・多様な働き方や法人内共通業務の効率化などの取組が、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、各種の業務運営において一層活かされていくことを期待したい。	3	松山	◎多様な働き方の実現に向け、必要な制度や省力化・効率化について議論し、職員の働き方改革推進計画の策定に向けて進めている。また、テレビ会議システムの活用で効率的な会議、ペーパーレス化に向け、タブレット端末を有効に使用している。特に、コロナ禍での在宅勤務が必要となったこともあり、今後を考えて議論を加速させて頂きたい。
	4-14	システム改修や事務処理フローの見直し等による業務効率化、施設予約システムの構築による事務効率化及び利用者の利便性向上	A		3	島田	
	<主な実績> [4-13] ・多様な働き方の実現や共通業務の効率化へ向け、業務の可視化や定型業務の見直し、テレビ会議システムの活用、会議等のペーパーレス化などに取り組んだ。 [4-14] ・令和2(2020)年4月稼働に向けて、新財務会計システムを構築した。 ・令和2(2020)年度4月の本運用開始に向け、施設予約システムの構築を行った。				3	杉谷	◎新財務会計システムの一本化や施設予約システムの構築により、業務の簡素化、省力化が図られた。 ◇多様な働き方の実現や法人内共通業務の効率化、また、財政会計や施設予約の新システムの構築などの取組が、現在の新型コロナウイルス感染症の影響下において各種の業務運営に活かされていることを期待したい。
					3	鈴木	◎多様な働き方の実現に向けて、各部署の職員による参加型ワークショップ等を開催し、各職場の業務をお互いに理解した上で取組を推進できるよう工夫している点が評価できる。職員の意識づけ、風土づくりは継続した取組が求められることから、引き続き、取組が推進されることが期待される。 ◎新財務会計システム、施設予約システムの構築により、事務の効率化を図った点が評価できる。多様な働き方の実現や法人内共通業務の効率化、また、財政会計や施設予約の新システムの構築などの取組が、現在の新型コロナウイルス感染症の影響下において各種の業務運営に活かされていることを期待したい。
					2	高橋	◎紙ベースで行っていた各種施設使用の申請予約受付を、施設予約システムで行うようになったことは好ましい。ICTを利用した業務効率化策は、あらゆる業務、分野において、更に研究、実践することが望まれる。 ◇多様な働き方の実現や共通業務の効率化に向けて、業務の可視化、定型業務の見直し、テレビ会議システムの活用、会議等のペーパーレス化に取り組んだとのことである。期せずして、年度末のコロナ禍により、正にこうした取り組みの成果が問われることになったし、一定の成果が挙げられたと思われる。社会全体の各組織がこの共通課題に取り組んでおり、この面での一層の研究、実践が望まれるところである。 ◇2019年度に新装備した新財務会計システムが2020年度稼働するにあたり、業務フローの簡素化・共通化が図られたとのことである。円滑な新システムの運用と、それによる全体的な業務の効率化が望まれる。
					3	村瀬	◎現時点では窓口省略や煩雑な手続きの簡素化が中心であるが、学生目線に立って効率化や合理化を進めていると評価。 ◇業務効率化への取組みは着実に進展していると思われるが、効率化・合理化を「見える」ようにする工夫(定量化)をお願いしたい。
					3	最上	◎新財務会計システムを構築し、購入依頼、調達、会計、資産等にかかる事務フローの簡素化・共通化を図った。

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	V 財務内容の改善に関する目標を達成するために取るべき措置
-------------	-------------------------------

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価			評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組	自己評価			評定	委員名	評定説明(コメント)
大項目33 財務内容の改善	4-15	志願者の増加による入学検査料収入の増加、公開講座の開講率向上による公開講座等収入の増加及びTMUプレミアム・カレッジ選考手数料収入、外部資金獲得促進施策実施のための組織体制の整備	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・支給実績に基づく執行見込額を踏まえ、執行残額が最小限となるよう予算編成を行ったことで、人件費予算額を1億円以上削減した。 ・寄附者顕彰制度、寄附金受付システムの導入などの環境整備により、寄附件数及び寄付金額が増加した。 ◇更なる充実が期待される点 ・学校の規模から考えると寄附金の件数及び金額は、共に多くない。法人名、大学名が変わったことも追い風として、継続的・追加的な取り組みが望まれる。 ・学内の施設貸出について、学内・学外とも、引き続き、手続きの利便性向上を図るなどして、有効に施設が活用されるよう推進されることが期待される。	3	松山	◎大学の規模から考えると寄附件数および寄附金総額は、共に多くない。同窓が母校の後輩に対し、様々な形の経済支援を行える環境作りが必要であり、期待している。	
	4-16	寄附金受付システムの周知促進・利用拡大	B		3	島田		
	4-17	学生納付金等の適正水準の検討	B		3	杉谷		
	4-18	人件費の適正な管理及び過年度決算分析、執行状況に応じた弾力的な予算配分	B		3	鈴木	◎寄附者顕彰制度、寄附金受付システムの導入などの整備により、寄附件数は約2倍、寄附金額は1000万円弱、拡大している点が評価できる。クラウドファンディングの導入も行われており、引き続き、多様な方法で寄附金の拡大を図っていくことが期待される。 ◇学内の施設貸出について、学内・学外とも、引き続き、手続きの利便性向上を図るなどして、有効に施設が活用されるよう推進されることが期待される。	
	4-19	強固な財政基盤の構築	B		3	高橋	◇寄付金増加を目指す数々の取り組みを実施していることにより、28年度が8件、1,624千円だった寄付実績が、元年度において、27件、45,064千円まで急増したことは高く評価される。歴史、規模、卒業生数などから考えれば、やがて、桁の違う寄付金を毎年集めるようになっても不思議ではない。法人名、大学名が変わったことも追い風として、継続的・追加的な取り組みが望まれる。	
	4-20	学内施設(有形資産)の有効活用の促進、知的財産等(無形資産)の有効活用の促進のための情報発信、技術移転活動の強化に向けた取組	B		2	村瀬	◎志願者増による入学検査料、公開講座やTMUプレミアムカレッジの参加者増による受講費収入増を評価したい。併せて人件費予算額を1億円以上削減したことは傑出した成果であると評価(何故か自己評価がBであるが)。 ◇大学資産の活用への取組みも進展しているが、教育・講堂等以外の施設・設備の活用についても是非検討を進めて頂きたい。ネーミングライツについても検討してはどうか。	
		<主な実績> [4-15] 以下取組により自己収入の安定的な確保につなげた。 ・都立大において、最新の入試情報について、HPや大学説明会等で積極的に広報を行い、前年度並みの志願者倍率を維持した。 ・オープンユニバーシティにおいて講座の体系や内容を見直し、開講講座数や有料講座が拡大したことにより、受講者数や収入が増加した。また、TMUプレミアム・カレッジを開講するとともに、令和2(2020)年度入学に係る本科及び専攻科への出願者を確保し、選考料及び受講料の安定的収入を得た。 ・外部資金の獲得状況の見える化を図り、外部資金の獲得に向けて取り組んだ。 [4-16] クラウドファンディングや、寄附者の顕彰制度を導入した。 [4-18] 支給実績に基づく適切な執行見込額の算出により、教職員数を維持したうえで、人件費予算額を1億円以上削減した。 [4-20] 令和2(2020)年度より、教室・講堂等の光熱水費を使用料とともに一括事前徴収とすることを決定した。				2	最上	◎寄附に係る環境整備を推進し、寄附件数及び寄付金額が増加した。 ◎教職員数を維持したうえで、人件費予算額を1億円以上削減することができた。 ◎知財収入金額が増加した。
	<参考意見> ・大学資産の活用への取組みも進展しているが、教育・講堂等以外の施設・設備の活用についても是非検討を進めて頂きたい。ネーミングライツについても検討してはどうか。							

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	VI 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するために取るべき措置
-------------	---------------------------------------

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価		
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名
大項目34 自己点検・評価及び情報の提供	4-21	都立大における、新たな自己点検・評価活動を活用した認証評価受審に向けた準備 等	B	<評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・プレゼンス向上に向けて、ソーシャルメディアを積極的に活用して都民等が各大学・高専を身近に感じられる工夫を行うことや、「100歳大学」の取組の一環として特別講演会を開催することなど、様々な取組を推進した。 ・卒業生・同窓会等との連携を強化するため、学長、校長、副学長等が全国各地の地方同窓会支部総会やホームカミングデーで積極的に同窓生と交流を深めた。 ◇更なる充実が期待される点 ・OBからの広く厚い支持や支援が、直接的にも間接的にも、大学の魅力を深く増すことにつながるため、同窓会と連携し、一層の工夫をされたい。	3	松山	◎財務レポートを「わかりやすさ」「読みやすさ」の観点から改善し、法人の財務情報を公開した。 ◎各大学の名称変更に伴い、プレゼンス向上に向け積極的な広報活動を展開した結果、都民等に対して幅広くPRすることができた。 ◎卒業生・同窓会等との連携を強化するため、学長、校長、副学長等が全国各地の地方同窓会支部総会やホームカミングデーで積極的に同窓生と交流を深めた。
	4-22	評価結果等のHP による継続的な公開、財務を通じたわかりやすい情報発信	B		3	島田	
	4-23	プレゼンス向上に向けた積極的な広報展開、組織広報力の向上 等	A		3	杉谷	◎大学の名称変更の影響もあるだろうが、専門家の知見を取り入れた積極的な広報活動により、前年に引き続き、ホームページのアクセス数やSNSのフォロワー数が伸びている。
	4-23-2	卒業生・同窓会等との連携強化	B				
	<主な実績> [4-21] 各校で自己点検・評価及び外部評価受審準備を行った。 (都立大) 令和4(2022)年度に受審予定の認証評価を見据え、自己点検・評価活動を実施した。 (産技大) 機関別認証評価を受審した結果、「適合」の評価を受けた。 (高 専) 機関別認証評価を受審し、評価基準を満たしているという評価結果を得た。 [4-22] 変更後の第三期中期計画及び令和元(2019)年度年度計画に関する資料をHP上に公開した。 [4-23] 法人及び各校で認知度及びブランド力を向上させるための戦略的な広報活動を展開した。 (法人) 名称変更や各大学・高専の特長を効果的に伝えるため、専門家の知見を活用した一貫性のある広報を展開した。各大学・高専の取組や教育研究もついで、ソーシャルメディアを積極的に活用して発信した。 (都立大) 名称変更ポスター掲出等により、名称変更周知を行った。オリジナルグッズの作成や、学生や教職員の協力によるSNS等での情報発信を実施した。 (産技大) 様々な媒体で産技大の教育成果を発信し、【410名】の大学院説明会参加者を集めた。単位バンク生から24名の入学者があり、単位バンク生向け入試に9名の受験者(うち9名入学)があった。 (高 専) 第三期中期計画後半(令和2(2020)年度から令和4(2022)年度まで)の「高専広報戦略」を策定した。HPをリニューアルし、受験生に有益な情報を取得しやすいデザインに刷新した。				2	鈴木	◎プレゼンス向上に向けて、ソーシャルメディアを積極的に活用して都民等が各大学・高専を身近に感じられる工夫を行う、「100歳大学」の取組の一環による特別講演会を開催する等、様々な取組を推進した点が評価できる。公式ホームページのアクセス数の向上、SNSのフォロワー数の拡大、プレス掲載率の向上など、数字にもその効果がうかがえる
				3	高橋	◇各大学の名称変更の際の改めでのPRは、絶好の広告機会であり、それなりの成果は得られたと認識するが、変更後のこの時期も、まだまだチャンスであると思う。 ◇都立大、産技大において、「ホームカミングデー」を開催していることを評価する。OBからの広く厚い支持や支援が、直接的にも間接的にも、大学の魅力を深く増すことにつながるの、同窓会と連携し、一層の工夫をされたい。	
				2	村瀬	◎積極的なブランド力向上への取組み(4-23)や卒業生・同窓会との連携強化(4-23-2)を高く評価したい。コロナで逆風の中、名称変更の訴求に努めプレス掲載率が向上したことも顕著な成果の一つといえる。 ◇更なる訴求力、プレゼンス向上のため、鉄道会社(京王・小田急)や他の都立公共施設とのコラボ(ポスター掲示など)を検討してはどうか。 ▲英語HPへのアクセス件数が減少している、原因を探った上で是非改善して頂きたい。	
				3	最上	◎法人及び各校で、外部機関からの評価を反映し、経営や教育・研究の質の向上に取組とともに外部への情報発信を的確に行っている。	

令和元年度業務実績評価 項目別評価(素案)

資料1

【評 定】 1…年度計画を大幅に上回って実施している。 2…年度計画を上回って実施している。 3…年度計画を順調に実施している。 4…年度計画を十分に実施できていない。 5…業務の大幅な見直し、改善が必要である。
 【評定説明】 ◎…優れた点・特色ある点 ◇…更なる充実が期待される点 ▲…改善すべき点

中期計画に係る該当項目	Ⅶ その他業務運営に関する重要目標を達成するために取るべき措置
-------------	---------------------------------

評価項目	中期計画に対する法人の取組、自己評価		評定	業務実績評価(素案)	委員評価					
	小項目	主な取組			自己評価	評定	委員名	評定説明(コメント)		
大項目35 その他業務運営	4-24	計画的な施設整備、将来の工学分野の教育研究体制の在り方検討	B	<p><評定説明> ◎優れた点・特色ある点 ・日野キャンパスの新施設において、今後の多摩地域における産学公連携の拠点となるために求められる機能等を反映した基本設計図面を作成した。</p> <p>・省エネルギー対策について、各キャンパスのエネルギー消費量の把握によるエネルギーマネジメント、学生や教職員に対する省エネや節電等の意識啓発等により、前年と比較して、電気使用量、電気料金とも削減を図ることができている。</p> <p>◇更なる充実が期待される点 ・研究活動における不正行為や研究費不正使用の防止に向けた取組として、eラーニングによる講習会が行なわれているが、研究倫理教育及び研究費不正使用防止に関する研修とも教員の受講率は98%である。本来、教育研究者である教員の受講率は100%であるべきである。受講率100%を目指していただきたい。</p> <p>▲改善すべき点 ・情報セキュリティ事故が複数の機関において、複数件発生するのは由々しき問題である。情報セキュリティ対策として、対策ソフト等の整備・更新、eラーニングの未受講者に対する直接的な催促、未受講者に対するアカウントの一時停止の検討など、厳格な対処によって全体的な意識向上を図ろうとしているが、事故が生じた状況、要因に適切に対応した形で、引き続き、再発防止を徹底されたい。</p>	3	山 松 山	◎都立大では学長をトップに、大学構成員の声を踏まえたキャンパスグラウンドデザインの検討を進めている。 ◎施設設備計画に基づき、老朽化を解消する更新工事を着実に進めている。 ◎日野キャンパスの新施設建設に向けた準備は着実に進んでいる。 ◎学生及び教職員の安全管理意識の向上と安全管理の徹底のために、各種講習会や訓練・トレーニングを実施すると共に、パンフレットの配布などを行い、安全確保に努めている。 ◎首都直下地震や大洪水等の大規模災害が想定されており、学生および教職員の安全を確保するための総合防災訓練が実施され、多くが参加している。 ◎地球温暖化を抑制するため、電気使用量を抑制し、温室効果ガス排出は着実に削減しており、排出量削減義務率を十分に達成している。 ◇研究活動における不正行為や研究費不正使用の防止に向けた取組として、eラーニングによる講習会が行なわれているが、研究倫理教育および研究費不正使用防止に関する研修とも教員の受講率は98%である。本来、教育研究者である教員の受講率は100%であるべきである。受講率100%を目指していただきたい。			
	4-25	学生及び教職員等に対する安全衛生教育・訓練の実施、研究室(実験室)等の使用ルール策定・周知	B							
	4-26	防災体制の強化、教職員に対する防災関係の取組、災害対応マニュアルの整備	B							
	4-27	省エネルギー対策の推進	B							
	4-28	ハラスメント防止の意識啓発の取組、ハラスメント発生時の適切な対応	B							
	4-29	人権意識啓発に関する取組、有為な女性教員の確保・育成、女性教員が働きやすい職場環境の整備に関する取組	B							
	4-30	研究不正行為・研究費不正使用の防止に関する分析及び学部長等への還元、研究コンプライアンス研修の実施及び受講状況のフィードバック	B							
	4-31	情報セキュリティ意識向上、更なる情報セキュリティ体制の強化、今後の技術的セキュリティ強化策	B							
	<主な実績> [4-24] ・都立大のキャンパスグラウンドデザインの検討の土台となる検討指針及び策定方針を決定した。 ・日野キャンパスの新施設について、今後の多摩地域における産学公連携の拠点となるために求められる機能等を反映した基本設計図面を作成した。 [4-26] ・平成30(2018)年度に再編・整備した危機管理マニュアルを活用した防災訓練を実施した。 [4-27] ・特定温室効果ガスの排出量を極力抑え、【28.5%】削減(単年度)とした。 [4-28] ・教職員合同研修(3回)、教員に対する出前研修(4部局・キャンパス)、都立大幹部教員向け研修(2回)の計9回のハラスメント防止研修を実施した。 [4-30] コンプライアンス研修受講率は【教員98%、職員100%】となった。 [4-31] ・情報セキュリティ事故発生後、メール誤送信防止対策を導入や全教職員を対象とする情報セキュリティ意識の向上を目的としたeラーニングの設問や解説を工夫するなどの再発防止策を実施した。 ・システム監査による有効性検証の結果も踏まえ、今後の法人に必要なセキュリティ対策の検討につなげた。		<参考意見> ・ハラスメント防止について、研修の開催、リーフレットの作成・配布による意識啓発、相談員アドバイザーによる相談員支援等の取組が行われている点が評価できる。2020年6月より、改正法が施行され、事業主に対するハラスメント防止に対する責務が明確化された。徹底した取組が求められるようになっており、ハラスメントの発生が0件となるよう、教職員に対し、より強いメッセージを伝えていくことが求められる。 ・e-learning未受講者に対するペナルティ(アカウントの一時停止等)を早急に制度化していただきたい。また、教育・研修受講者の受講記録を受講者自身が確認する仕組みが望ましい。				3	高 橋	◇各種のコンプライアンス遵守のための研修等(ハラスメント防止、人権問題、研究不正防止、研究費不正使用防止、情報セキュリティ等)がしっかりと継続されていることを評価する。常に最新の動向、情報も取り入れ、不祥事の発生を防止する体制を堅持されたい。	
									3	村 瀬
				3	最 上	◎日野キャンパスの新施設において、今後の多摩地域における産学公連携の拠点となるために求められる機能等を反映した基本設計図面を作成した。 ◎2大学1高専で研究コンプライアンスに関する取組についての意見交換・情報共有をする連絡会を3回実施し、法人全体の研究コンプライアンスの意識向上につながった。				